「将来の教育を考える若手教員グループトーク」での主なご意見

1月20日に、第5回総合教育会議(1月9日)における議論や、これまでお聞きしてきた様々なご意見を踏まえて、「新時代とやまハイスクール構想(仮称)」基本方針(素案)を作成しました。

この基本方針に関し、将来も教育現場での活躍が期待される若手教員のご意見をお聞きするため、若手教員グループトークを開催しました。

若手教員グループトークの概要

開催日時・場所

2月13日(木)10時~12時:富山県民会館

テーマ グループトーク(1)

- ・令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿について
- ・「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」について

グループワーク②

・「目指す姿」の実現に向けた検討方針について

主なご意見(項目別)

Ⅰ. 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿について

基本目標

- ・予測困難な時代と言われているが、課題発見力、実行力、主体性があれば、どのような時代になっても生きていける。
- ・世の中がどのように変わっても、礼儀や協調性、他人を思いやる心は大切にすべき。教育活動の中で経験させていくことが必要。
- ・学校という枠を超えて地域と積極的に関わっていくことが大事であり、地域の担い手を育てることが大切。
- ・学校では、子どもたちが対話をして、自分たちで学校をつくっていくという主体性を引き出したい。新しい学校をつくる場合、これまでの状況を一度リセットできると思うので、そういった学校にしていくチャンスがあるのではないか。
- ・今回示されている区分は、特に普通系学科の特色化を図る方向性となっている。多様性、包摂性が求められている時代で、様々な学科を用意していこうというところは非常によいと思う。
- ・グローバルと商業系は親和性があると思う。地元で職業人を目指す人と国際社会に出て行く人との間で目指す方向は違っていても、相乗効果が期待できるのではないか。
- ・スタンダードとエンパワーメントを分けている理由がわからない。どの生徒にとっても当たり前のことだと思う。
- ・芸術やスポーツなどは部活動の強さにも関わるものでもあり、特色として打ち出せるのではないか。
- ・総合学科は2年進級時に系列を選ぶことになるため、選択肢確保という点では親和性が高い。
- ・職業系専門学科はグローバルに入れることができると思うので、「職業科だけ」ではない区分もあってほしい。
- ·8つの学習内容が書かれているが、その土台にあるべき富山県への愛着を育てることができていない現状がある。そうした部分を探究活動の中などで取り組んでいけるとよい。
- ・複数学科設置校の方が、互いに刺激し合えてよいと思う。部活動等で学科を越えた友人ができ、互いの学習内容について知ることができる。また、例えば普通科生徒が進路希望先の学びについて、他学科の先生から教わることができるため、メリットが大きいと感じている。
- ・併設校になると、例えば職業科の持っているノウハウを横展開できる可能性がある。
- ・多学科併設校は、様々な価値観をもった生徒と出会えることができ楽しいと思うが、総合選択制高校では、カリキュラムの固定や資格取得の兼ね合いからも、他学科の科目を選択することがなかなかできない。生徒は望んでいるかもしれないが、実際の運用が難しいため、もどかしい。
- ・普通科単独校にいると職業科でどのようなことを行っているのかわからない。職業科の生徒が普通科で受験に向けて頑張っている姿を見たり、普通科の生徒が職業科で就職に向けて頑張っている姿を見たりすることで、視野が広がっている。
- ・専門性を極める方向性と、他学科を併設したときにできることがそれぞれ違うので整理する必要がある。
- ・生徒が全日制・定時制・通信制を同じ土台で選べたらいいのではないか。
- ・現在の学科・コースに特色があると思っており、新たな学科構成の区分にもよいところを引き継いでほしい。

- ・学校規模については、人口減少のことを考えると素案にあるとおりでよいと思う。人口に合わせた配置数が必要だと思う。
- ・規模が大きくないと「選びたいものを選べる」ということを実現させるのは難しいと思う。
- ・総合学科設置校では、様々な分野を選択している生徒が同じクラスにいることで、勉強を頑張る生徒やスポーツを頑張る生徒などが互いに刺激 し合っている。様々な選択肢が設けられた大規模校は魅力的だと思う。
- ・様々な取組みをするときには、人が多い方が仕事の分担など業務的、労働軽減的にはいいのではないかと思う。
- ・立地の悪いところに小規模単学科ができた場合、その学校が先細りしていくのではないかという不安がある。それなら、最初から大規模校に置い た方がよいのではないか。
- ・大規模校の確かなメリットをもっと説明していかなければ、この素案の現実性や説得力は見せられないだろう。逆に、しっかりアピールできれば、それが大きな車輪になって県の教育が動いていくかもしれない。
- ・大規模校設置のメリットに「いろんな生徒たちと触れ合える」とあるが、自分の経験からは、大規模校の400人と触れ合えるかというと決してそうとは言えないと思う。中規模校の効果とそれほど変わらないのではないか。
- ・大規模校の10クラスは、とんでもない人数だと思う。野球部などチームを組めるといったメリットもあるが、部員数が多くなりすぎる面もあると思う。現在の中規模くらいの学校が適切な距離感・通学時間で複数配置されるのがいいのではないか。
- ・大規模校を1校つくるのであれば、中規模校を2校つくれば、通学の面でもよいと思う。また2校あれば、部活動でもトーナメントの数が増え、より競争が生まれるため、競技力の向上も図られるのではないか。大規模校となると、出場できない生徒がたくさん出ることが考えられる。
- ・富山県の人口規模を踏まえると、6学級でも大規模だと思う。現在存在していない大規模校は必要ないのではないかと思う。中規模校でも部活動など人数的な担保はある程度可能だと思う。
- ・学校規模について、200 人規模と400 人規模の間が大きすぎるので、この間の規模があってもよいのではないかと思う。
- ・小規模校では教員数が少ないのに、他校と比べて仕事量が変わらないという部分に対する配慮が必要だと思う。

- ・大規模校があればよい。STEAM、グローバル、地域共創という組合せが理想。大規模校の中に、それぞれがあるだけではなく、学科間の交流があるとよい。
- ・自分で時間割を組み立てる大学方式の大規模校が1校ぐらいあれば面白いと思う。さらには、第1期にあるとよい。今までの固定観念を変えていく 仕組みが必要であり、そのような学校で勤めたいと思う。
- ・中規模校については、スタンダードをすべてに配置したらよい。
- ・複数学科が設置されている中規模校に勤務しているが、ちょうどいいバランスだと感じている。進学希望の普通科生徒に専門学科の教員が高い 専門性をもって受験指導を行うことができる。
- ・職業系専門学科は、地域連携や人材育成という観点では、小・中規模校でも大丈夫ではないか。
- ・普通系学科の特色化という点では、学校規模や組合せは非常に重要。その反面、一つの学校に複数学科・コースが設置されると、学校運営 上難しい部分もあるのではないかと思う。
- ・職業系専門学科や総合学科は単独校であることが望ましいと思う。工業高校では、社会に出る上で重要な力を養うという点で、部活動の役割は大きい。普通系学科が併設される場合、7限授業などにより部活動や学校行事などの時間の確保が難しくなるデメリットがあると考えている。
- ・学科についての理解が不十分なため、入学後にミスマッチを起こす生徒がいる。総合学科のように1年次は共通に学び、2年次から選択する仕組みがあれば、ミスマッチを防ぐことができる。
- ・入学後のミスマッチを避けるために、一括募集や志望変更制度などを検討してはどうか。
- ・入学後に、例えば、スタンダードが難しそうだからエンパワーメントを選択できるといった仕組みがあってもよいのではないか。
- ・学校数が減ることは致し方ないと思うが、20校というのは極端ではないかと感じている。

Ⅱ、「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」について

- ・大規模、中規模、小規模それぞれにメリットがある。そのメリットに合わせて学校を配置すべき。
- ・バランスを考えた配置は必要。立地条件のいい所に集約していくことが必要。
- ・通学のことを考えると区分①~⑥の普通系学科は、通学圏内に設けるべき。

配置の

- ・大規模校のニーズもあると思うので、富山市の通いやすいところに1校設置し、全県から通学できるようなことを考えればよいのではないか。県内に 大規模校3校というのは、なかなか難しいのではないか。
- ・小規模校は、地域と連携した教育がしやすい。砺波学区、新川学区に設置してはどうか。
- ・特色を持たせた学校を各所に配置するのは難しいと思う。大規模校に複数の特色を持たせ、進級する際に生徒が選べるようにする方法もよいのではないか。
- ・各地区に工業科単独校があり、各地域に卒業生を輩出しているのは、製造業が盛んな富山県にとってよいことであり、今後もこの形が続くとよい。
- ・少人数教育で一人一人の生徒に目が行き届くようにする必要がある。

学級規模

- ・学級内の生徒数が2~3人異なるだけでも、負担が違うと感じている。教員一人当たりの生徒数が少ないことは、働きやすさや働き甲斐、生徒とのコミュニケーションの充実などにつながっていくのではないか。
- ・少人数学級はかなり大事なポイントになると思う。まずは、職業科や特色のある学校から1学級あたりの生徒数を下げてほしい。国が高校での35人学級を進める前に、県で実現させてほしい。

Ⅲ、「目指す姿」の実現に向けた検討方針について

様々なタイプ

の学校

学科

- ・中高一貫教育校について、他県生徒の保護者からは、専門的な研究に深く取り組めるという点がよいと聞いている。科学技術に特化した学校を検討するのもよいのではないか。
- ・グローバル教育といっても幅が広いため、本当に成果を上げるのであれば、中高一貫イマージョン教育がよいと思う。
- ・日本語の国際バカロレアを行うのであれば、英検や様々な資格取得によって、総合選抜型入試で大学に行く方がよいのではないか。
- ・国際バカロレア認定校などの新しいことに取り組むのであれば、教員の確保が必要。
- ・再編するにあたって、1校ぐらいはどこにもルーツのない学校をつくってはどうか。そういう学校こそ、第1期につくらなければならないのではないか。

- ・富山県は大学・地域・企業が協力的なので、もっと連携すべき。それらをつなぐ役割は学校のことや生徒のことをよく知っている教員の方がふさわしいと思う。
- ・地域と学校をつなぐ役割を教員が担うのは、すべての学校では難しく、課題も多い。しかし、教員自身でも学ぶことは大切で、今の社会で求められていることを知ることで、指導に生かすことができる。
- ・インターンシップによって、生徒だけではなく、教員も外部に出ていけばよいのではないか。
- ・企業と学校をマッチングしてもらえないか。教員の負担をどこか外部に担ってもらいたい。
- ・例えば、地域から専門家を招聘して年間を通して授業を委託するなどして、現場で必要な技能を身に付けさせてもらうことができれば、教員の負担 軽減にもつながるのではないか。
- ・地域課題を解決する探究活動を実施する学校が増えればいいと思う。ただし、人の配置は大切であり、1校に1人はコーディネーターを配置し、地域とのやりとりなど全てのことを担ってもらわなければ成り立たないと思う。
- ・他県では、コーディネーターが充実し、教育課程の作成等にも関わっているとのこと。富山県でもそのような取組みがあるとよい。
- ・エンパワーメントでは、日本語の指導が必要な生徒への支援も必要となるだろう。教員の負担軽減のためにも、常勤の外部スタッフが必要。そうすることで、教員は生徒のフォローに時間をかけることができる。
- ・教員という仕事は、やりがいはあるが負担が大きいと思う。やりがいがあって続けやすい仕事になるように制度改革をしていかなければ、今から進める教育改革を行っていく上で良い人材の確保ができない。
- ・再編によって高校数が減った場合、コンパクトな県という特徴を生かして、高校同士の横のつながりが増えるとよいのではないか。
- ・教員は授業が第一で、そこに時間をかけるべき。部活動については地域のエキスパートの方にしっかりとした待遇をした上で、専門的な指導をしていただくのがよいのではないか。
- ・高校で部活動の地域移行が成り立つのかは疑問。部活動は人格形成の面や、社会に出る上での大切な位置づけでもあると思っており、外部の方に任せるのがよいのだろうかと思う。
- ・教員数を増やして各教員の業務量の平準化を図ることで、働きやすくなるのではないか。
- ・フレックスタイム制が学校現場でも導入できるように、授業時数が減少できるとよいのではないか。

その出

- ・素案にある基本方針には賛同する。人口減少は避けられないので、新時代ハイスクール構想には賛成。今が変革期。
- ・新時代ハイスクールでは、これまでの伝統も残しつつ、新しいことができるようになればよいと思う。
- ・富山県は学習環境がよい。自然、文化の特色は、地元に生きた教材があるということ。それらをうまく活用していく必要がある。

「第3回地域の教育を考えるワークショップ」での主なご意見

1月9日に開催された第5回総合教育会議では、将来の県立高校のあり方に関し、これまでにいただいた様々なご意見を踏まえてとりまとめた「新時代とやまハイスクール構想(仮称)」基本方針(たたき台)についてご議論いただきました。

今後、この基本方針に関し、さらに多くの声をお聞きするため、「地域の教育を考えるワークショップ」を開催しました。

第3回ワークショップの概要

開催日時

【新川学区】1月31日(金)10時~12時:新川文化ホール

【富山学区】1月24日(金)14時~16時:富山県民会館

【高岡学区】1月23日(木)14時~16時:高岡文化ホール

【砺波学区】 1月29日 (水) 15時~17時: TONAM I 翔凜館

参加者

教育関係者(市町村教育長等、中学校長、高等学校校長及び教諭)、経済界・保護者の代表

テーマ グループワーク①

・令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿について

グループワーク②

- ・「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」について
- ・「目指す姿」の実現に向けた検討方針

主なご意見(学区別)

・新川と富山を一緒にして東部エリアとしたことにも違和感がある。新川から富山へは通いやすいとは思うが。 ・小規模校は新川に置く必要があるのか。南砺平ほどの地域はなく、どこでも通えるのではないか。 ・新川地区と関わりの深い工業科や農業科は特に必要ではないか。高校と地域の連携が大切となる。 ・新川学区を考えた時、例えば、朝日町・入善町の生徒が上市町や立山町の学校に通学する選択肢には入らないであろう。中規模校をバランス Ш よく配置することが必要だと思う。 ・新川学区としては大規模校の設置は難しい。様々な人との出会いを考えると複合型の様々な学科が集まっているところがあればよいのではない か。今後の人口減少も見通した上で検討していく必要がある。 ・規模と地域ごとの配置については異論なし。 ・富山市の中心部や北部はある程度の規模の学校が作れるが、南の方は人口が少ない。そうした生徒のことも考えながらバランスよくやっていくこと 4.必要。 富 ・富山県はコンパクトな県であるがゆえの配置も大切であり、高校と地域のつながりも必要ではあるが、自分の行きたい高校に行くことが大切だと思 证 ・探究学習となると、富山市はかなりコンパクトとなるので、逆に難しさがある。エリアが富山県全域でもよいのではないか。氷見高校が入善町のこ とをしてもよいのでは。富山県としての魅力発信ができればよいと思う。 ・このような大規模校が必要なのかと率直に思ったが、仮に県西部に一力所作るのであれば、交通の便のことを考慮すれば高岡学区のどこかなの だろうと思う。 ・高岡学区をはじめ富山県全体でも外国籍生徒の割合が高くなっている。今後、地域や日本を支える貴重な存在になり得ると考えられるので、外 国人特別枠以外にもそうした生徒がチャレンジできるような仕組みなどの幅広い選択肢が設けられていることは大切だと感じている。 高 ・高岡学区は、ほどよい田舎都市で、適度な便利さと不便さが共存する地域なので、子どもたちは伸び伸びと成長できる。それを感じることができれ ば、Uターンして地元で活躍する人も増えるのではないかと思う。 ・呉西・呉東の切り分けだが、文化や言語が異なるので、呉西地区の教育を維持・管理してくことが必要。地元に密着した教育も残して欲しい。 ・砺波地区の問題は、金沢があること。ワクワク感や魅力があって、金沢に行かなくても富山でも十分にやれるという気持ちにさせたい。 ・砺波学区は、小さい学区ではあるが、様々な学科があり、中学生に対してある程度多様な選択肢が用意されている。それをアップデートすることは 大切だが、学区の中で、中学生が様々な選択ができるように学科が設置されてほしい。 ・子どもたちがこれだけ部活動のことを言っているのに、案の中に部活動のことが書かれていないように思う。こうした部分をよく検討してほしい。 ・再構築し、大中小規模校にすることについては賛成だが、砺波学区では大規模校の配置は難しいので、小規模校と中規模校の配置が必要と 思う。 ・子どもの数が減少する中では、高岡、砺波と考えるのではなく、県西部で揃えていくという考え方は理解できる。 ・砺波学区には職業系専門学科を充実させていくべきだと思う。地域の協力をもらえる風土があるので、コラボレーションしていけば、よりスペシャリスト の育成につながるのではないか。

主なご意見(項目別)

Ⅰ. 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿について

基本目標

- ·高校を「義務教育とつなぐ場」、「社会とつなぐ場」とあるがこれを大事にしないと、数合わせになってしまう。(新川)
- ・「学びたい、学んでよかったと思える県立高校」が子どもにとって一番大事。これをどう具現化していくか、キャッチコピーで終わらないようにしてほしい。 (新川)
- ・「『新時代』に適応し、未来を拓〈人材の育成」という基本目標について、その通りではあるが、いつの時代も将来予測は困難であったため、そういう 部分を解消し、知恵をつけていくのが教育なのだと思う。(高岡)
- ・普通系学科がいくつも分類されているのは素晴らしい。(高岡)
- ・普通系学科を①~⑥を分けるのは分けすぎだと感じる。これらをどこの学校でも複合的に学んでいかなければ子どもの成長につながらない。(新川)
- ・中学校では、高校など調べたりさせているが、普通科については特徴が弱い。これを機に高校そのものがどう特色化していくか。(高岡)
- ・この資料を中学3年生が見たときに、「僕はスタンダード」となるのが大半なのではないか。(新川)
- ・以前は、偏差値かスポーツ科の2択くらいしかなかったが、グローバルやSTEAMなどがしっかり選択できるくらいカラーとして育つことが重要。(富山)
- ·行政·企業·大学等とのスムーズな連携を図り、生徒の個別の興味·関心に基づく探究的な学びをサポートできる教育環境をもつ普通科系高校が必要。(高岡)
- ・「未来創造」部活動強化について、どこの高校でどの部活動を強化していくのか決めていく必要がある。どの競技も競技人口が減る中、数多くの高校に生徒を分散させていては難しい。(富山)
- ・地域を支える人づくりや、一旦県外へ出ても地域に戻ってくるような子どもたちを大切にしたいという思いから、地域共創といった地域から学ぶ内容が必要。(高岡)
- ・「地域共創」は大切なテーマだが、中学卒業時に自ら選ぶことは困難。地元の将来のリーダーをつくるなど看板を魅力的にできないか。(富山)
- ・地域の特性はどちらでもよく、主眼ではない。世の中はどのように成り立っているのか、どういう仕事をしている人がいて、どういうスキルを持っていてなどを学んでほしい。そのための教科であり、教科を学ぶことが目的ではない。(新川)
- ・職業系は従来から人気があるが、⑧職業系専門学科がひとくくりになっていることが、もったいない気がする。(富山)
- ・教育内容については、普通系学科はよく整理されている。一方、職業系学科は未整理となっている。早く道標を見出し、関連進学先にどのように紐付けていくかが大切。しっかりと方向付けしてほしい。(高岡)
- ・地元の企業と連携して、職業科について考えていかなければならない。(新川)
- ・教育内容の周知の仕方によって、生徒が選ぶ高校が変わってくるのではないか。具体的に何をする学校か、何が身につくのか、必要なスキルが身につくということが見えてくるとよい。(新川)

教育内容(学科構成

- ・現在最も規模の大きい富山工業320人を上回る学校のイメージがつかない。大きな学校が県内に2~3校必要なのか慎重に考えてほしい。 (新川)
- ・大きなものを造るには、財源も必要になる。また、小さな学校をなくしていかなければいけないということにもなる。単純に、子どもたちを1カ所に集めてよかったねということにはならないのではと危惧している。(砺波)
- ・教員アンケートでは大規模校では生徒に目が届かないとあるが、先生が増えるのだから目が届くのではないか。(富山)
- ・子どもの選択肢を増やすという点では大規模校もあるべき。他県では学年17クラスや石川、福井でも普通科単独校で10クラス以上という学校がある。できないのではなく、設置すれば活動の場面が増え、切磋琢磨できるのでよい。(富山)
- ・大規模校は、選択肢が多く、柔軟性も高まると思う。一方で、一斉授業から脱却し、生徒の求めるものとマッチできるのかが課題だと思う。(富山)
- ・小規模の中学校から大きい高校へ入学した生徒が、適応に時間がかかる傾向にあるように感じる。大規模校を造るとそうしたリスクも増える気がする。(砺波)
- ・中規模校については、生徒や保護者、教員にとってもイメージしやすいが、大規模校については、様々なアイディアを募らせて、今までにないスタイルとしていかなければならないのではないかと考えている。(高岡)
- ・例えば小規模校においては、他の学校や地域の様々な世代の方との交流が大切になるのではないか。(高岡)
- ・小規模校では、生徒の顔と名前がほとんど一致し、表情もよく見えるため、少人数だからこそ強みのある手厚い指導が可能となる。そうした小規模 校だからこそ、教科横断的な授業をどんどん実践できないかと思う。(高岡)
- ・生徒数の大小によるメリット・デメリットはある。教員の負担を考えた場合、少人数であれば子どもへの手厚さは増すが、仕事の分担の面では、負担が大きい。(高岡)
- ・大規模校は新築、中規模校は改修と書かれているのに対し、小規模校にはどのことが触れられていない。規模に関わらずワクワクできる学校を 造ってほしい。(砺波)
- ・中学校から高校へ進学する段階で県外に流出することが問題になってきている。大規模校、中規模校、小規模校を含め、中学生の気持ちを汲んでいける学校が必要。(高岡)

教育内容と学校規模の組合せ

配置数の目安

- ・普通系学科、職業系学科とはっきり区別して特色を出して、選択しやすい学科構成にする方がいいと思う。混ぜない方がいい。将来が決まっていなければ、とりあえず普通科となっているのが現状だと思う。(新川)
- ·1年で基礎的な内容の学習を履修し、自分の進路について考える時間を持ち、2,3年で将来の希望に応じた専門的な教育を選択できるようになればよいのではないか。(新川)
- ・生徒の興味や希望に合わせて主体的に選べるようにしたらよい。子どもたちのアンケートからも学習内容を選択したいという回答が多いし、教科横断型なども含めて、わくわくする学校になるのではないか。(砺波)
- ・バカロレアと普通科を設置しているところもあるので、その形も大規模校のイメージにもつながるかもしれない。それぞれの規模の中で、何をするかが大切だ。(富山)
- ・アンケート結果からは、生徒も教員も学習内容を選択できる仕組みがある学校の割合が高く、一致しているため、そうした結果を捉えていくことは大切だろう。(高岡)
- ・大規模校に商・工・農・水など専門学科を集めて、色んな子が交流できるのがよい。いろんな価値観を受け入れる仕組みをどう作っていくかが課題。普通科系でもコースを作ることで、いろいろな価値観に触れられる。中規模校でも多様な価値観に触れるために横展開をしていけたらよい。 (高岡)
- ・小規模校については、この学校ではこれができるといった特色がないと、生徒は入ってこないだろう。(砺波)
- ・学科構成のパターンがA~Dといったようにあるが、どのような生徒を育てるのか、もう少し具体的に見えるようにすべき。(砺波)
- ·何をもってそこに高校を置くのかという理由を明確にしなければならない。1番は子どもたちの利便性だと思う。(新川)
- ・「バランスよく配置」は人によって思いが違う、地域性のバランスよく、いろいろな学科があるというランスなどそれぞれの思いがある。(新川)
- ・小・中・大規模校の配置のイメージがつかない。小規模校は特色ということもあるだろうが、郊外というイメージがあるし。中心部に集めるのか、いろいるな考え方があるだろう。(富山)
- ·交通機関と学校の場所は非常に重要。砺波学区の場合は、城端線やバス通学以外は、親の送迎が必要となるが、共働きの家庭が多い中では、大きな負担感生じる。ある程度分散したような形の学校のあり方が必要だと思う。(砺波)
- ·移動時間が一番のロスであり、学ぶ時間に費やしてほしい。そのために適材適所へ配置し、近いところを選ぶということも一つの選択肢としてあると思う。(砺波)
- ・子どもたちは、地元なら地元の学校に行くだけではなく、市町村を出てみることも必要だと思う。日本でなくてもよい。地元に戻る大切さを学べると思う。(富山)
- ・県西部に大規模校1校とあるが、中規模校をそろえた配置の方がよいのではないか。生徒が通学によって消耗しない学校の配置が重要だと思う。(砺波)
- ・大規模校の設置をするのであれば、中心部になるだろうと思う。(富山)

Ⅱ、「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」について

- ・ゴールを決めてそこに向かっていく手法はよい。富山県はコンパクトな県なので実現しやすいだろう。進めていく途中で、計画の検証や評価が必要。令和 20 年度で 20 校になっても途中経過という意識をもって取り組むべき。(富山)
- ・小中学校で再編後も人口が減り、再度、再編しなければならない現状もある。そういうことがないように進める必要がある。(新川)
- ・計画が15年後で止まっている。その後を見通しているのか、その後も人口が減っていくので、15年後も耐えられる体制ではないと思う。この形を完成とすることが疑問。(新川)
- ・子ども達の学びがどうあるべきかということが一番大事。どのような資質を備えた大人になってほしいか、こどもファーストで考えて積み上げていった結果、順次進めていくのだと思う。(高岡)
- ・どういうものを目に映る形で示していけるかが大事で、未来の子育て世代に対して、不安を払拭できる形での情報の発信が必要だと思う。子育て 時代を味方につけることが大切だと感じる。(高岡)
- ・ドラスティックに変わっていくことについては、情報提供をする仕組みと合わせながら、変化する段階毎にどのように変わっていくのかということを理解してもらえるようにすることは大切だと思う。(高岡)
- ・ハード面もソフト面もすべて含めた逆算が必要。中身についてのことがあり、ハード面の話というのはわかるが、その逆ではないと思う。(砺波)

・新時代HSと移行準備校が併設されることになるが、従来の学校の生徒が置き去りにならないように教育の質を担保する必要がある。(富山)

- ・すべてが移行準備校となったが、再編時には吸収されたように見える高校も出てくるだろう。そうなった時のためにも、子ども中心だという論点をしっかりと説明するべきだ。(富山)
- ・ゼロベースで、すべての学校を移行準備校としたのはよいと思う。ただ、令和7年度のうちに方向性が決まるのかは疑問に感じる。(砺波)
- ・検討の進め方の時期については、この通りだと思う。移行期間においては、新設校の新しい教育課程と統合前の教育課程が混ざることになるため、統合前の課程の生徒が卒業できるように保障する必要がある。(高岡)

置の姿

配

移行準備校

Ⅲ.「目指す姿」の実現に向けた検討方針について

新時代HSの開設等

- ・最終形である「新時代とやまハイスクール」20 校という姿を先に示し、三段階かけて段階的に進めていくバックキャスティングの考え方はよい。そのためには、具体的な校名はなくても、最終形の 20 校のイメージ図があるとよい。(富山)
- ・「目指す姿」については、最終目標が示されており、そこに向かっていくために、現在の生徒や保護者、地域の思いに寄り添いながら、少しずつ変化させていく中短期目標がある。こうしたことが無理なく進めていく上でよいと思う。(高岡)
- ・令和 10 年度に高校に入学する生徒は、令和7年度に中学校に入学する。何も見えないまま進路選択していくことになるので、早めに第1期校の情報提供をする必要がある。(富山)

学科・コースの改編等

- ・令和 20 年度のゴール設定が時間をかけることも大事だが、保護者の立場として、子どもが志望校を決めることに不安を覚える。スピード感をもって、令和 20 年度とは言わず、令和 15 年度などの早い段階で動ければ良いのではないか。(砺波)
- ・再編を3期に分けたのはよいと思っているし、学科改編などの今できることは、今取り組んだ方がよい。(砺波)
- ・魚津工業の一括募集については生徒・保護者の理解も進んでいるので速やかに行ってほしい。(新川)

様々なタイプの学校

科

- ・現状、中学校と高校の学習内容は重複する部分があるため、教育内容が深まるような方向に進化していくのであれば、中高一貫教育というものは、価値のある教育スタイルになると思う。(高岡)
- ・中学校段階では地理的に通うことができなかったり、様々な事情があったりすることもあるので、中高一貫の課程に、他の中学校を卒業しても高校 段階から入学できるようなシステムがあるとよい。(高岡)
- ・学力や教養、志について、小中高でそれぞれやるのではなく、継続的に取り組めるとよい。中・高と分ける必要もないのでなはいか。STEAMやバカロレアについても、中高で一貫して取り組めると、熱心な先生方も多いし、その取り組みが周りの学校にも波及していくようないい影響を及ぼすと思う。(高岡)
- ・全国募集については、県外に出て行くばかりではなく、全国から富山に来てもらえる流れを作るためにも、今後検討する必要がある。(高岡)

施設・設備

- ·移行準備校の設置、段階的に進めることに賛成。第2期までに計画が遅れ、校舎が使えないなど教育に支障が出ないように進めてほしい。
- ・施設も大切。長寿命化工事も限界がある。新しい学校というのであれば、施設・設備にもお金をかけ魅力ある学校にしてほしい。(富山)
- ・どの学校も設備が古いのに、修繕の予算がないのではないか。もっと短いスパンで考えてもらいたい。(砺波)
- ・大改革として、施設・箱物の見直しにこそ希望がある。現状を見ても、いろいろな制約で生徒の希望を叶えられていないところもある。きれい、新しいというものを求めているのではなく、生徒と教員の意見も合わせて新しいものを取り入れられたらよい。(富山)

活力ある学校・組織づくり

- ・職業系学科の先生には、時代を先取りしたようなことを教えてもらいたい。そういう点からも、企業でできることは協力したい。(砺波)
- ・コーディネーターが県内に2名配置されているとのことだが、各高校にコーディネーターを配置できたらよいのではないか。企業も求めていると思う。 (砺波)
- ・県が掲げる教育内容やハード面のコンセプトはよくまとまってきている。ソフト面、教育内容を具現化する教員の育成が必要。教員の研修や大学での教員養成の充実が必要。(富山)
- ・今できることは、教育課程をしっかりと取り組むことであり、新しいことにも取り組まなければならない。そこにあえて挑戦していく先生方の意識改革が大事だ。そこがあって、生徒も教員もウェルビーイングが高まると思う。(富山)

その他

- ・全日制だけで考えるのではなく、定時制や通信制も含めて考えていくべきではないか。愛知県ではフレキシブルハイスクールが開設されたことを踏まえると、その需要が今後ますます高まると思っている。(新川)
- ・いろいろな学び方があってよい。特別支援教育の観点などを大切にすべきではないか。すべての子どもたちにアクセスしていくことも大切だ。(新川)
- ・生徒が石川県の私立に行くこともよくあることだ。私学のプロモーション活動がさかんであることも理由ではないかと思う。(富山)
- ・中学校3年生の段階で県外に行こうとする子も多いので、小中学校との連携をしながら、県立高校で学びたい子が増えるとよい。(砺波)
- ・多様な入試制度を考えたらよい。学力以外の項目を設けて入試をしていかなければならない。(高岡)

「第2回地域の教育を考える意見交換会」での主なご意見

【富山会場】令和7年2月 8日(土) 10:00~12:00

参加者30名:発言者 9名(実人数 9名)、書面によるご意見19名

【砺波会場】令和7年2月11日(火祝)10:00~12:00

参加者53名:発言者12名(実人数12名)、書面によるご意見35名

【高岡会場】令和7年2月15日(土) 10:00~12:00

参加者65名:発言者12名(実人数11名)、書面によるご意見46名

【新川会場】令和7年2月23日(日祝)15:00~17:00

参加者60名:発言者12名(実人数11名)、書面によるご意見29名

主なご意見(学区別)

・新川地区で大規模校を運営していくのは厳しい。 ・入善町、朝日町は上市町、立山町には通えないので、同じ学区であることに違和感がある。 ・市町村から高校がなくなれば、地域の衰退につながる。 新 Ш ・新川地区にも富山市と同じらい競争力のある進学校をつくってほしい。 ・新川地区は広い地区であり、富山市からやや離れている。通学費など負担が困難な家庭もあることから、ボリュームゾーンや専門学科などの高 校は新川地区の通いやすい拠点にあるとよい。 ・富山県はコンパクトな県ではあるが、地域に小規模校があり、大中小のバランスを考えながら計画をつくってほしい。 富 ・4学区から2学区に変更する際、通学の問題がある。JR、バス等、共通のシステムを構築し、その交通費も無償になるとよい。 Ш ・高校再編といえば、自分の住む地域にある高校が無くなることや自分の通う学校、出身校が無くなることへの危惧があり反対する。 ・高岡市は昨年の出生数 800 人に対して、高校が普通科4校、職業科2校、私立3校がある。これだけの高校が必要なのか疑問。 ・通学バス等が必要になるのでは。「通える」というのは子供たちにとって大変重要なこと。私立高校を選択する際にも、この傾向はある。 ・将来的な高校の配置を考えるときに、インフラ面を考慮し、行きたい学校はあるけれども交通事情が望ましくないため選択できないということになら ないようにしてほしい。 ・一般的な大人にとって最大の興味は「母校の名前、施設が残るのか」ということ。全ての高校の名前がなくなるのか、代表的な市、地域の名前 のついた高校は残るのか、ある一定の方針も早いうちに示してもらいたい。内容より「母校存続」等の大人の感情的な話にならないことを望む。 ・中学生が石川県に流れている状況をみると、家から遠くても魅力ある高校を選ぶのではないか。 ・交通手段の配慮は必要となる地域だと思うので、何か策がほしい。 ・やりたいことがあると3年間遠くても頑張れると思う。加えて、その子たちへの補助が手厚いとさらに選択肢が広がる。 波 ・地域や企業等の期待を加味して、高校の配置案を示すとよい。 ・居住人口に比例した学校配置ではなく、富山らしい自然環境の中で学べるような配置を考えてほしい。都市部に偏った配置ではなく、伸びのびと 学べる田園地に広い校舎を新設するなどしてほしい。

主なご意見(項目別)

Ⅰ. 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿について

基本目標

- ・基本目標について「新時代」を(切り)拓き、未来を創る人材の育成でどうか。(高岡)
- ・「誰一人取り残さない」がキーワードになる。様々な背景を抱える子ども達が行きたいと思えるような学校をつくってほしい。(富山)
- ・自分が学びたいことができる高校を中学生は選択しているので、私立高校を選ぶ生徒も多くなっている。再編にあたり、子どもたちが学びたいことを 学べる高校が必要。(砺波)
- ・県立高校の普通科について、私立高校のように自由に選択できる教科があったり、進路選択の方法が広がってもよいのではないか。(高岡)
- ・これまで、情報化への対応や先進技術への対応を視野に入れた学科コースへの編成はなされてきたが、グローバル化(未来創造)(STEAM)、未来や国際競争力を視野に入れた改革は初めて。(富山)
- ·STEAM.GLOVAL 等 時代の潮流、必要感をタイムリーに取り入れ考えられていること、県教委として総力をあげて取り組んでいること、夢を描いていることに敬意を表する。(砺波)
- ・地域共創によって各地域の特色は打ち出せる。決して偏差値のみでの選考にはならないと思う。(高岡)
- ・15 年後も「グローバル」や「STEAM」が求められる教育内容でありつづけるか、というと必ずしもそうとは言えない。当初にあまり厳密に特色化してしまうことで、急速に学校が陳腐化してしまう危険を含んでいることを認識しておく必要はある。(高岡)
- ・企業の意見をとり入れたり、どんな人材がほしいか聞いたりするとよい。(富山)
- ・富山県は「ものづくり県」を標榜している。県立学校であるからこそ、いかに工業系の志望者を増やすか、他県からも来たいと思ってもらえるか、知恵を絞っていただきたい。(高岡)
- ・工業系、商業系の高校が定員割れしている状況がある。ものづくり県として職業系専門学科、特に工業系、薬業系を残し、県外からも生徒を呼び 込めるような魅力ある学科としてほしい。(高岡)
- ・現在、日本は労働力不足による様々な社会問題が起こっている。解決には、子どもたちの柔らかな発想が欠かせない。そのような問題に取り組む ことのできるカリキュラムを作っていただきたい。(高岡)
- ・自分が中学生の頃は、行ける学力や偏差値のみで学校を検討する生徒も多かったので、「新時代ハイスクール」を開設したとしてもその学校ならではの取組や魅力を当の中学生が知る機会を増やしてほしい。(新川)
- ・教育課程として共通の部分と選択できる部分があることには賛成。そのために何が必要か検討すべき。(富山)

教育内容(学科構成)

- ・大規模校を設置するのであれば、他学科との交流など生徒に刺激になるような授業やプログラムを組んでもらいたい。(富山)
- ・高校生のアンケート結果では、部活動や学校行事の満足度が高い。これらを維持するには、ある程度の規模の学校が必要。特に部活動においては大きい方がよい。(砺波)
- ·R20 年度以降のことを考えた時にも耐えられる、ある程度余裕のある大規模校は必要。(砺波)
- ・大規模校であれば学食を設置できる。学食でしっかりと食事ができることがメリットであると考える家庭もある。(砺波)
- ・大規模校の発想は良い。是非多くの教員、多くの生徒が「わくわく」して過ごせる学校にしてほしい。一方で小規模校に通いたいという生徒もいることにも配慮してほしい。(高岡)
- ・大規模校の設置は、高校生活の中で異質な他者と協働的に学ぶチャンスであり、生徒が学びたいと思ったニーズに応えやすくなると感じる。こうした学校ができることで、学校数は減ったが選択肢は増えたと感じてもらいたい。(高岡)
- ・高校生のアンケートでは、友達・先輩・後輩との関係や部活動、学校行事の満足度が高い。これたところは大規模校ならではの魅力。(砺波)
- ・1学年 14 学級くらいのたくさんの学科がある高校で学んだが、切磋琢磨し、いろんな人とともに学んだことは非常によかった。(砺波)
- ・子どもが減っているのに大規模校をつくる必要性が感じられない。大規模校のねらいは、200 人規模でもできるのではないか。(砺波)
- ・大規模校設置は反対の意見もあるように感じた。公共交通機関が不十分な本県では難しい。令和7年度の設置方針では必要、不要の話題も取り上げてほしい。(砺波)
- ・大規模校が本当に必要なのかがわからない。箱(人数)しか見えないから必要感が感じられないように思う。(砺波)
- ・8クラスの学校でも「選択教室の不足」の声はある。体育館、グランドも含めてよほど大きな学校を作らないと、本当に「生徒たちが満足できる」学校にはならない。(高岡)
- ・学校規模について少子化により高校数を減らすのに定員を今より大きくすることは疑問。現状、行きしぶりや不登校児の対応も小中学校でできていない。まずは子どもたちがワクワクして学校に行ける環境を整えることが必要。(新川)
- ・色々な刺激を受けることができる大規模校があってもよいが、生徒・教員の割合と教育内容がセットで考えられているのか。そうでなければ、学校 行政の効率化にしか見えない。(高岡)
- ・生徒が入りたくなるような学校をつくってほしい。そのためには、子どもたちがやりたいことができる学科を作り、そうした学科がたくさん必要ならば大規模になるだろう。学科を作ったうえで学校規模が決まればよい。(砺波)
- ・部活が自分達でできることは嬉しい。中学校は部活が自分の学校だけでできなくなっている。他校の人と合同チームは嫌だから中規模校は何校かあってほしい。(砺波)
- ・大規模校は目が届くのか心配。中規模校が現実的ではないか。今の子どもは昭和生まれと違い、サポートが必要。(高岡)
- ・小中規模のメリットとして、生徒が多様化する中、教員がチームとして生徒の顔が分かりきめ細かな対応ができる点がある。(砺波)
- ・大規模校・中規模校・小規模校と自分のニーズに合った高校のサイズを選択できるようにしてほしい。(砺波)
- ・大中小の学校規模が示されているが、現在ある 121 から 190 人の 11 校がなぜ否定されるのか。(新川)

教育内容と学校規模の組合せ

- ・複数の科からなる学校に通っていたが、互いにプライドをもって通っており、活気があった。中規模~大規模によっていい効果が上がるかもしれない。(富山)
- ・一つの学校に複数の学科が併設されるのは互いの生徒の交流ができる点で効果がある。例えば工業科と普通科を併設することで普通科の探究活動の幅が広がり専門学科の進学対応でも協力できる。(高岡)
- ・職業科は各学科がばらばらにやっていても意味がないので集約してほしい。(新川)
- ・普通系学科に6区分あるが、中学生は選択に悩む。入学後に違った区分を学びたくなった場合の対応があるとよい。(富山)
- ・中学生が高校を選択する際、学力、進路、部活等の要素があるので、それらを明確に示してほしい。(富山)
- ・大規模校Aは、普通学科①~⑤のコース案としてあげられているが、定員 400 人、10 クラスとして、どのようなクラス割や募集方法を想定しているのか。希望が偏ることが想定されるが、選抜時にコース割すると、偏差値による選択になってしまう。(高岡)

・学区制が撤廃されたが実際はこれまでと進路先は大きく変わっていない。中学生の視点で考えるとインフラ整備も合わせ考え、行きたい高校、学びたい高校に行けないというケースがないようにしてほしい。(高岡)

- ・現実として将来のことまで考えず、部活動で選ぶ生徒や、決められないから普通科を選ぶ生徒がいる。また、学校そのものでなく通学途中に寄り 道できる魅力的な街かも選択の要素となる。(高岡)
- ・最近の中学生は、やりたいことがあれば遠くても通う傾向がある。(新川)
- ・住むところにより選択肢が狭まることは避けてほしい。遠いからその学校をあきらめるといったことがないよう、公共交通以外にも通学バスの運用など も検討してほしい。(砺波)
- ・通学への配慮は必要だが、コンパクトな富山県では、行きたければ距離を問わず選ぶのが今の高校選択。距離に捉われず子どもたちが望む高校編成をしてほしい。(富山)
- ・距離が遠くなったとしても魅力のある学校づくりがなされれば、通いたい、学びたいと、当事者である生徒たちは思うのではないか。自宅から近いと ころに通学する生徒ばかりではない。大切なのは学ぶ内容。(砺波)
- ・子供を中心に考えることが大切なのはその通りだが、学校がなくなると地域がすたれることも事実。県として小中学校は残していくことも併せて考えていただくと、共通理解が得られやすい。(富山)
- ・ものづくり県であることから工業科や商業科が企業に求められている。東西に1校ずつは必要。(高岡)

配置数の目安

Ⅱ.「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」について

配置の

- ・子どもまんなかは大切だが、地域の活性化と完全に切り離せるものではない。3期に分けた進め方はよいが、ゴールの姿は示しつつ、期ごとに評価し、見直しも可という柔軟さがあるとよい。大変難しい問題だが、将来的なことも考え高校の教育を一から見直していること自体、意義あること。 (砺波)
- ・令和 20 年度の 20 校のイメージが示されなければ、1期校、2期校と考えていくことができない。(富山)
- ・令和 20 年度を目途に 34 校全でを移行準備校とすること、34 校から 20 校といった大胆かつダイナミックな計画を示したことには並々ならぬ県教 委の決意を感じる。大いに評価したい。(富山)

移行準備校

- ・「移行準備校」から、新たな学校を「開設」する場合の、R10年度、R15年度の端境期の高校1年生、2年生にはどのような対応をイメージしているのか。(募集停止や新高校への転校など)(富山)
- ・移行準備校に入学した「最後の」学年の生徒は、部活動はおろか学校行事も成り立たなくなることが危惧される。(砺波)・

Ⅲ、「目指す姿」の実現に向けた検討方針について

新時代HSの開設等

- ・単なる統廃合でなく新しい学校を創っていくという方向性はよいとは思うが、現場の教員には負担感も大きいと思う。ワクワクできる魅力的な教育内容にしていくためには教員の努力に頼るだけでなく、それを支える行政の役割も大きい。教員に対しての明るいメッセージの発信も必要。(高岡)
- ・再編であれば、統合元の学校のまま進み、何も変わらないということになるかもしれない。新設ならば教育課程から何から新しく作り、新たに学校を立ちあげる。そうすることで、否が応でも教員の意識を変えることが必要。(高岡)
- ・教員が新しい学校をつくっていくという姿勢が必要。(新川)

様々なタ

イプ

の学校

学

科

- ・中高一貫校を開設するならば、もっと早く開設すればよい。生徒数がどんどん減る中で設置するのは難しい。R15を待たずして開設してほしい。(砺波)
- ・中高一貫校は6年間を通した、しっかりとした理念が必要。その理念にぶれずに6年間続けられる子どもがどれくらいいるのか。現状で中学3年時に考え、高校を選ぶという状態はうまく機能しており、無理をしてつくる必要性を感じない。(高岡)
- ・国際教育を否定するわけではないが、国際バカロレア認定校の設置は、自治体が一部の人に偏った教育費をかけることになり不公平。(砺波)
- ・バカロレア認定校などは教員養成に10年、20年の単位で考える必要がある。それを提供するだけの基礎的な手当てがなければ変わらない。 (高岡)
- ・小中学校では1割の外国人生徒がいる地域であるのに、県立高校が選ばれていないという現状がある。県立高校を選ばなかった理由をしっかり 調査をして外国人枠についての検討をしてもらいたい。(高岡)
- ・外国籍生徒をすべての学校で受け入れた場合、支援体制が手薄になる可能性がある。日本語教育などを行う者と、様々な学校がリンクする仕組みづくりがあるとよい。(高岡)
- ・女性、地元で働ける場、全国募集などを念頭に検討してほしい。(新川)

施設•設備

į

- ・校舎は耐震、長寿命化を図って使われているが、実際には各所で古くなっており、修繕が必要なところが多いと聞いている。限りある税金を活かすためにも、高校の拠点化が必要。(新川)
- ・大規模校に限らず20年後も対応、変化できる校舎、ハードを整備してほしい。(高岡)
- ・施設・設備の面で私立に遜色のないものを準備していくべき。(新川)
- ・再編後の高校跡地の有効活用として私立高校の誘致なども検討してほしい。(高岡)
- ・施設設備は企業の協力で使用させてもらえれば、新しい物や最新を触ることができる。また、企業に興味を持ってその会社に入ろうと思う子も出る。企業との意見交換をすることでお互いに情報を得る場になる。(砺波)

活力ある学校・組織づく

IJ

- ・どんなに高校を再編しても、内容に魅力がない、実績が出ない状況では生徒が県外、私立に流出する状況は変わらない。そうならないためには、余裕のある人員配置が必要不可欠。しっかりと予算をつけ、将来の見通しをもって、本気で取り組んでほしい。(高岡)
- ・高校に特色を出す際、教員定数の縛りや授業コマ数の縛り、コース・展開を増やせない、等々があり、思い通りの特色が出しにくい現状もある。 適切な人員配置を可能にしていただきたい。(新川)
- ・現在も取り組んでいる県立高校の魅力化がなぜ進まないかという反省に立って、今後の検討を進めるべき。例えば、校長の任期が短く特色化が 進まないことなどを踏まえ、教員の運用面を検討してほしい。(高岡)
- ・教育内容(学科構成)の実現のために、それを現場で創りあげていく教員をどう育成(確保)してくのか、その育成のための準備が必要となる。(高 岡)
- ・現場の教員は日々業務をこなしながら自己啓発も行っている状況である。その中で更に新しい技能を各自で身につけていくというのは現実的ではない。やはり外部研修を充実させてサポートしていかないと、器はできたものの内容が伴わない状態になることが危惧される。ぜひ、研修内容も同時に充実したものにしていってほしい。(高岡)
- ・部活動など特色ある学校づくりのために、教員免許に拘らず外部人材の活用を検討してほしい。(新川)
- ・企業と連携した取組みにより、生徒は企業から得られるものがあり、企業も生徒から学ぶことがあるのではないか。(砺波)

その

- ・不登校の子どもたちも高校は卒業したいと考えている子が多く、高校でつまずく子どもも多い。やり直せる社会、もう一度チャレンジできる環境、そんな高校が増えることを願っている。(砺波)
- ・高校1年生の高校不適応が近年増えているように思う。生徒に合った高校を求めるものではなく、高校に小・中学校と同様の配慮を求めるものではないが、子供がスムーズに小中高と進んでいけるとよい。(高岡)
- ・途中で進路の希望変更があった場合など、別の高校での単位取得もできる制度があるとよい。(新川)
- ・とやま探究フォーラムに参加し、高校のことがよく分かった。こうした活動が保護者や子どもたちに伝わる機会があるとよい。(新川)
- ・国にも働きかけ、少人数学級を進めてほしい。(富山)

こども県政モニターへの「新時代とやまハイスクール構想(仮称)」基本方針(素案)

についての意見聴取について

1. 調査の概要

(1)目的

今後高校に通うことになる小学5・6 年生や中学生に対し、学んでみたい高校 などについて意見聴取をすることで、「新 時代とやまハイスクール構想(仮称)」基 本方針の策定において、こどもの意見を 反映させる。

(2) 対象者

こども県政モニター54 人 (小学生: 22 名、 中学生 22 名、高校生 10 名)

(3)方法

Webアンケートフォームにて実施。

(4) 時期

令和7年1月24日(金)~1月31日(金)

(5) 質問事項

- 問1. 将来、どんな高校があればよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。
 - ①国語や数学(算数)など基本となる学力を伸ばすことができる高校
 - ②ものごとを深く考え、見つけた問題を解決する力を伸ばすことができる高校
 - ③世界のことを知り、海外の人と交流できる力を伸ばすことができる高校
 - ④芸術やスポーツ、プログラミングなど興味のあることについて学習できる高校
 - ⑤将来の進路(大学進学・働くなど)に合わせて学べる高校
 - ⑥地域の人やお店、工場の人などからいろんなことを教えてもらえる高校
- 問2. たくさんの先生や生徒がいて、興味のあることを選んで学習できる大きな学校について、どう思いますか。(自由記載)
- 問3.1つの学校の中に中学校と高校があり、6年間続けて通う学校について、 どう思いますか。(自由記載)

(6)回答の状況

	対象者数	回答数	回答率
小学生	22	10	45. 5%
中学生	22	11	50.0%
高校生	10	4	40.0%
合 計	54	25	46.3%

2. 調査結果

たくさんの先生や生徒がいて、興味のあることを選んで学習できる大きな高校について、どう思いますか。	1	2	3	4	5	6
子供が興味のある事を選んで学べることは大変良いとおもいます。 (小)				0	0	0
たくさんのことを勉強できると将来の役に立ちそうです。大きな学校だといろいろ選べて楽しそうです。(小)		0		0		0
選択が出来る所はとてもいいが、生徒の問題ごとや、一人一人の想いを確認しづらくなると思う。(小)			0	0		0
私は小学1年生の時、全学年で9人しかいない学校に通っていました。その時を思い出すと本当にみんな家族みたいに過ごして楽しかった事ばかりです。いつも先生がそばに沢山いてくれて色々な事を教えてくれました。もちろんいじめもありません。大きな学校が出来て、先生達が生徒をちゃんと見てくれるのか心配です。生徒は上手く先生の目をすり抜けて問題を起こします。注意や叱りや脅しで問題を起こす生徒はいなくならないと思います。(中)	0	0			0	
自分の興味に合わせて勉強できるのは、とてもいいと思う。これからの時代、自分のことは自分で決め、しっかり考えて行動 しなければ生きていけないから。(中)		0	0		0	
人数が多い方たくさんコミュニケーションがとれて、わからないところもたくさんの先生に聞けてとても良いと思います。しかし、人数が多いがゆえに多数の意見ばかり通って、少数意見が聞かれないということはあってはならないと思います。生徒全員が不自由なく、のびのびと学習していけるような学校が必要だと思います。(中)	0	0	0			
自分とは異なった価値観や学力を持った人がたくさん集まるため、日々刺激を受けながら生活ができると思う。また、人数が 多い分、自分と本当に合う人も見つけやすいのではないかなと思う。しかし、人数が多いと生徒同士での志や思いの強さの差 が生じやすくなり、生活しにくくなるという面もあると思う。(中)	0	0	0			
大きな学校だと、いろんな人と出会えて楽しいという点で良いとは思いますが、中規模学校(1学年 120 人ほど)だと、一定数の仲間と深いしっかりとした関係を構築できるので、私は大きな学校より中規模学校の方がいいと思います。先生方や学年の仲間と深い学びを得たり、安全な学校を作ったりしていくためにも、私は人数が多すぎるとよくないと思います。(中)		0	0			0
大きいと、一人ひとりの存在感が希薄になるので、小さい学校のほうがいいです。 (高)					0	
「たくさんの先生や生徒」「興味のある事を選んで学習できる」「大きな学校」この3点がセットになって新聞などに記載されるが、思い違いだと思う。 たくさんの先生や生徒がいても、大きくても、興味がある事を選んで学習出来るとは限らない。(高)		0	0		0	

- ①国語や数学(算数)など基本となる学力を伸ばすことができる高校
- ②ものごとを深く考え、見つけた問題を解決する力を伸ばすことができる高校
- ③世界のことを知り、海外の人と交流できる力を伸ばすことができる高校
- ④芸術やスポーツ、プログラミングなど興味のあることについて学習できる高校
- ⑤将来の進路(大学進学・働くなど)に合わせて学べる高校
- ⑥地域の人やお店、工場の人などからいろんなことを教えてもらえる高校

1つの学校の中に中学校と高校があり、6年間続けて通う学校について、どう思いますか。	1	2	3	4	5	6
高校入学時には学校の選択ができた方が良いと思うので、別々が良いと思います。 (小)				0	0	0
高校受験がなくなるのは良いと思います。友達と高校へ行っても離れなくても良くなるので良いと思います。 (小)	0	0				0
高校へいくテストがないので興味のあることをじっくり調べる時間が増えそうです。友だちとずっと同じ学校なのも楽しそうです。 (小)		0		0		0
6年間同じ学校に通いつづけるとなると、その6年間で不登校になった時に、復帰しづらくなると思う。 (小)			0	0		0
基礎的な学力も必要になるので、中学校では主に基礎的な学習、高校では将来に向けての学習をするのがいいと思います。また、通学先が変わらないのもいいと思います。なので、富山にそういった学校を増やしていってほしいです。 (小)						
中学受験が出来る中高一貫校を増やして欲しいです。育った環境や価値観が近い生徒たちで学校をわけると良いと思います。 (中)	0	0			0	
小中はいいけど、中高は想像がまだつかない。受験がなくなるという事になるので、気が抜けてしまいそう。 (中)		0				
私は中学3年生で、今まさに高校受験の真っただ中ですが、高校は選べる方が楽しいと思います。中学校はまだ将来何をしたいか決まっていない生徒も多いはずです。そんな中で、中学校3年間の生活でやりたいことを見つけていきます。 (中)	0	0	0			
学校が変わらないのは良いと思う。制服も一緒だとすぐに買わなくても良いのかなと思う。中学入学に受験があるのであれば、 小学校から、塾に行かないといけない…(中)				0		0
賛成です!大学受験までを見据えた学習ができると思うから。 (中)	0	0	0			
私は小学生の時と中学生、高校生の時と考えややりたいことが変わるので、6年間同じ学校はきついと思う。 (中)				0		0
高校を選べないのは、将来が固められてしまっているようで辛い。 (高)					0	
高校受験がなくなると、その分違った勉強ができるので良いと思います。 (高)			0			
その他の意見	1	2	3	4	⑤	6
自分の好きなことや興味があることが何なのか、きちんとわかっていないので、興味あることだけに進んでいくのは、少しだけ不安です。 (小)	0			0		0
例えば $1\sim6$ 時間のうち、 3 時間は基礎学習、もう 3 時間はそれぞれの夢に合った学習を同じような夢を持つ生徒たちと学習するような学校はいいなと思います。(小)						

- ①国語や数学(算数)など基本となる学力を伸ばすことができる高校
- ②ものごとを深く考え、見つけた問題を解決する力を伸ばすことができる高校
- ③世界のことを知り、海外の人と交流できる力を伸ばすことができる高校
- ④芸術やスポーツ、プログラミングなど興味のあることについて学習できる高校
- ⑤将来の進路(大学進学・働くなど)に合わせて学べる高校
- ⑥地域の人やお店、工場の人などからいろんなことを教えてもらえる高校

「新時代とやまハイスクール構想(仮称)」基本方針(素案)に対する意見募集(パブリックコメント)へのご意見

- 1 意見募集期間 令和7年2月4日(火)~2月28日(金)
- 2 意見件数等 意見提出のあった通数 34 通
- 3 意見の内訳 提出された意見件数 104 件

項目	件数
I. 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿	42
Ⅱ.「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」	17
Ⅲ.「目指す姿」の実現に向けた検討方針	45

- 4 ご意見 ※趣旨が同じご意見はまとめた上で、趣旨を踏まえて要約しています。
 - I. 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿

I. 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿	
ご意見	県の考え方
長期計画を立て、展望をもって高校の在り方をつくることはとても良いことだと思う。	15年後を見据えて思い切った改革を」などのご意見をいただきました。こうしたことを踏まえて、①まずは、将来(15年後目途)の県立高校の教育内容、学科構成・学校規模の組合せと配置など「目指す姿」を描き、②その5年前や10年前の「配置の姿」を逆算的に考えた上で、③各段階に必要となる「再編等」について検討することとしたものです。
1ページ 「新時代」の定義が暗すぎる。その言葉から連想する明るさが全くない。 学校間の学力格差の拡大と高校受験における一段の過激化の恐れがあるのではないか。教育格差の拡大と少子化の中で、より過度な競争意識が起き、「不登校児童生徒数」、「いじめ」、「暴力行為」、「自殺」が今後とも増え、異常な学校環境にならないか懸念され、教育格差の拡大と少子化が深刻化していく恐れがある。	人口減少の進行、技術革新やグローバル化の進展など社会が著しく変化す
高校の再編問題を通して、小中高の12年間の教育をほぼ終えた18歳の意識調査(「国や社会に対する意識(6か国)調査」日本財団2024)や、小中の義務教育9年間をほぼ終える15歳の意識調査(「先進国の子ども幸福度調査」ユニセフ2020)の結果から、また義務教育段階の問題を国連の子どもの権利委員会が指摘するように、「教育の質を維持しながら学校制度の競争的な性格を抑制」する方向へ繋がるようにすることも大事な視点ではないかと考える。	る中で、将来の県立高校では、①加速度的に進化する ICT や AI を活用できる力、②グローバルな視点、③自ら課題解決に取り組む力を持ち、社会のニーズに適切に対応し、多様な人々と協働し社会に参加する人材を育てる教育を提供することが重要です。引き続き、社会のニーズや生徒・保護者のニーズを踏まえ、どのような教育内容が必要か検討してまいります。
新しく生まれてきた子ども達を一人も取り残すことなく、一人ひとりが自分らしく生き生きと社会で活躍できる人間に育てなければならない。それが教育の一番大きな課題である。今までの教育方法でよかったのか。今の教育制度でこの先よいのだろうか。一度立ち止まって考える時期に来ているのではないだろうか。	

ご意見	県の考え方
富山県の未来は今の中学生、高校生にかかっていると言っても過言ではない。人はやりたいことが見つかれば自然に集中し努力するものである。自分がみつけた夢をどう実現させていくのか、その方法なり、道筋をたてる力をつけていくのが、これからの高校教育に求められる。高校の数ありきではない。富山県民はどんな教育を望んでいるのか、行政はどんな教育を提供したいと思っているのか、こういう教育をしたいから、そのための施設・設備はどこに、いくつ必要か。そこから議論が始まるべきではないか。教育の効果は社会のあわゆる局面であらわれる。富山県は山もあり、海もあり、自然豊かな土地である。この自然環境の中から、次のAI時代を生き抜く人を育てることがこれからの教育の目標であり目的である。そのために、これまでにない全く新しい発想で教育行政を進めて欲しい。	
県立高等学校の志願倍率が 0.99倍であったことや、今後のさらなる少子化問題を踏まえて、再編は必要と考える。 新時代と掲げているが、現在の価値観や社会的な状況が将来も持続するという前提が強すぎるのではないか。公教育が担うべき、社会統合の役割を	同上
重視すべきであり、学校の序列化はこれまで以上に社会の分断につながる 危険性がある。	
予測困難な時代に学校再編を進めること自体が矛盾しているのではないか。なぜ現時点での再編が最適なのかが明確ではない。県としては、こうした不確実性に対応できる人材の育成や、人口増加の施策が急務である。そのためには、ファミリー層が県内のどの地域にも移住しやすい環境を整えることが重要である。都市部への人口集中ではなく、県内各地でバランスの取れた人口増を図ることが、変化の激しい時代に柔軟に対応するための近道ではないか。	

ご意見	県の考え方
「県立高校の基本目標」は人格の完成を目標とし、学習権の保障を強く打ち出すべき。	
2ページ 県立高校の基本目標 「新時代」に適応し、未来を拓く人材の育成 「時代に適応する」などということを教育の目標に掲げるなど、周りに合わせることを目標に掲げるから、「指示待ち人間」になってしまうのである。もっと自由に自分を生かし社会に関心をも入材の育成が教育の一義的らない。「未来を拓く人材の育成」についるので、計画全体が土台から目標なのか。「基本目標」が間違っているので、計画全体が土台から間違っている。「現在の全ての県立学校(全日制)を再構築して新たな学を開設する『新時代とやまハイスクール構想』」再構築の定義が不明。個別最適な学びと協働的な学びは両立しない。ウェルビーイングはいい加減やめてもらいたい。 この方針では今後富山県、日本を背負う優秀な県民にはどのような能力、スキル、知識、教養、日本を背負う優秀な県民にはどのような能力、スキル、知識、教養、日本を背負う優秀な県民にはどのようなにいい加減やめてもらいたい。	予測困難な時代にあっても、社会のニーズに的確に対応し、多様な人々と協働して社会に参画できる人材を育てたいという強い思いから、基本目標として「新時代に適応し、未来を拓く人材の育成」などとしたものです。
高校再編の根底もあるものとして、「ウェルビーイング」を掲げる富山県が、どんな地域、富山県がいいかを考え、富山県の良さを確認することが大切だ。富山から若い女性が都市部に流出している現状も踏まえると、(1)自分らしく生き生きと生活すること・学べること (2)「周囲を大切にする」環境や人 (3)自由に物が言える雰囲気を大事にする教育が必要だ。	
今回の高校再編構想には多くの問題点がある。多彩な県民世論を結集せんと今、取組を展開されている皆様に心からの敬意を表したい一方で、観点が間違っており、方向がよいとは思わない。「新時代HS」は8種類の学校を提示しているが、結局は学力格差により振り分けになってしまうのは必至だ。新田知事は自身の富山高校時代の大学進学成績重視を振り返って「今が考え方の転換時」と述べているが、根本にメスを入れない改革は混まがあるだけないか	基本目標の実現に必要な教育内容として、普通系学科の①スタンダード、②STEAM(スティーム)、③グローバル、④未来創造、⑤地域共創、⑥エンパワーメントの6つと、⑦総合学科、⑧職業系専門学科の計8つに整理し、これらを大・中・小規模の学校規模と組み合わせ、県内にバランスよく配置する案としました。 また、全ての学校を再構築して新しい学校を開設する案としました。

乱を深めるだけではないか。

ご意見	県の考え方
従来からの高校にとらわれない抜本的で、しっかり考えられた構想だと思う。特に県外出身者の視点からは、富山市内にいわゆるエリート校が2校あることで今後の高校の再編を大きく妨げるものだと思っていた。これから、具体化していく中で、愛校精神によって、様々な抵抗があると予想されるが、しっかりと次世代へ残せる枠組みを計画していってほしい。	同上
「教育内容」が教育課程上、具体的にどんな科目(講座)になるのかわからない。教育プログラムとは何のことか。また、地域の企業や大学との連携強化のための具体的な枠組みが不透明であることから、実際に地域産業が求める人材育成が可能なのかわからない。	
学科編制が多様化することで、カリキュラム次第では大学受験対策が不十分となる懸念があることから、特に難関大学を目指す生徒のため、進学希望者向けに特化したコース (難関大学対策講座など)を設置するほか、予備校との提携やオンライン学習支援を提供し、大学受験対策を強化することが必要である。	今後、「教育内容」について具体的な議論を深め、必要となる教育プログ ラム(科目や外部連携等を含む学習方法)の検討を進めてまいります。
STEAMなるものは学術的な基盤のない一過性の流行に過ぎず、過度に傾倒すべき代物ではない。アートとリベラルアーツをごっちゃにしている時点でアウト。	- プム(科白や外部建携寺を含む子百万法)の検討を進めてまいります。
グローバル化が進む中で、英語や異文化理解、海外との交流を強化し、オンラインを活用した海外の高校との共同計画や、外国語でのディベート・プレゼンテーションを積極的に取り入れる。	
科学技術の進展に対応するために、プログラミング・AI・データサイエンスなどの基礎教育を充実させることが必要。単に情報の授業を行うだけでなく、実社会での活用や、テクノロジーと倫理・人間性の関係を考える教育も重要だ。	
普通系学科の未来創造において、部活動の強化とあるが、段階的に中学校の部活動が衰退する中、高校の部活動の強化のイメージがつかめない。	一定程度の規模を想定している中規模校や大規模校では、部活動の充実・活性化を図りたいと考えており、必要な施設整備や、優秀な指導者の招聘なども含む人材の確保にも取り組んでまいります。 また、部活動を理由に県外の高校へ進学する生徒が増えている中で、部活動のレベルや魅力を向上させる観点からも検討を進め、生徒から選ばれる県立高校づくりに努めてまいります。

ご意見	県の考え方
学校規模ではなく地域との関わりを大切にしてほしい。地域との関わりを重視した特色あるカリキュラム(総合的な探究の時間など)は魅力的であり、ふるさと富山を知ること、考えることにつながると思う。富山県は自然や伝統文化、産業(薬・ものづくり)に特色がある。これらを生かして、地元企業・大学と連携した実践的な学びを提供するのが重要だ。地元企業と物品の共同開発に取り組むなど、地域貢献ができたと実感できる学びをすれば良いと思う。	普通系学科の「地域共創」では、「地域の企業や高等教育機関等と連携した教育活動を展開するなど、独自性のある教育を実践する。」案としました。
中学生までは、身体の成長と同じく思考力も成長に個人差があり、必要に応じて学び直せる仕組みが必要である。補習の機会を増やし、学習方法を見直す指導をして生徒間の学力差を縮めることが必要であり、県全体で、中学校・高校の学力を底上げしていく丁寧な教育が必要。粘り強く地道で丁寧な教育をする学校や教員が評価され、県民が理解していることが、子どもにとって一番良い教育環境だ。新時代に合った形の高校再編が行われ、生徒が入学後もさらに意欲を高めて卒業する高校となることを願う。	普通系学科の「エンパワーメント」では、「様々な理由から義務教育の内容について学習不足である生徒等が、基礎学力を習得し、自己肯定感を高め、生きる力を育むことができる教育を実践する。」案としました。
デュアルシステムというが、工場で学校教育を安全かつ適切にどうやって 実現できるのか。くくり募集でスペシャリストは育成できない。	他県の先進事例等も参考に教育内容を検討してまいります。
大中小をこの人数とする根拠は何か。大と中、中と小の間の規模を否定するのは不合理。とくに400~480人の大規模校はいらない。R20の中卒生が6000人で県立高校全日制の生徒が4200人しかいないのに、現存しない400人以上の学校を2~3校作る必要があるのか。子どもが減るのに超特大校をつくって、その分学校数を減らすのは不合理。400人以上の学校は大きすぎる。教育環境として適正とは言えない。「多様な考え方に接すること」は400人以上いなくてもよい。小規模でも、中規模でも可能。	学校規模に関する多くのご意見を踏まえ、基本方針(案)では、 ・大規模校は現在の最大規模(320人)以上 ・中規模校は121人~320人未満 ・120人以下 といたしました。
あらたな「大規模校」は適切ではなく、その設置方針も今の段階では決めないで欲しい。「子ども真ん中」という理念に基づくと、今の段階での子どもの本当の思いや考えはわからない。14年後が不確定な部分がある。学校や社会の変化も早く、子どもの環境や考え方も変化するだろう。「いじめ、不登校、自殺」等が増加の一途をたどる中で、今後ますます生徒一人一人の顔が見え、できる限り全ての教職員が一人一人の生徒を知り、接することができることが求められる。小中高校のいくつもの学校が大規模校であった時代とは異なり、その時代の学校規模に戻るのは、無理がある。	大規模校では、①教科毎により充実した教員配置が可能となり、教員の資質向上と生徒の深い学びが図られること、②幅広い科目から生徒自らが選択して独自の時間割で学習できるようにもなること、③より多彩な部活動が設置でき、生徒の選択肢が増えること、さらに、④多くの生徒や教員の中で、多様な考え方に接することができることから、「個性や適性を伸ばす教育」や「ニーズに対応した個別最適な学び」につながり、活力ある高校づくりが可能になると考えています。いただいたご意見も踏まえ、大規模の設置方針(学科構成、設置場所など)について検討してまいります。

ご意見	県の考え方
大規模校の定員が埋まらない危惧もあるなかで、大きな予算を使い大規模 校を建設するのは適切ではない。むしろ、老朽化が進んでいる既存の多く の施設・設備の整備こそが必要である。現在の建物を利用し増築すること で、経費節減、環境にも大変有効だ。	
この度の再編で、現存する高校の規模以上の大規模校を2~3校設けるということに関しては「反対」する。現在の最大規模は富山工業高校の320人であり、さらに「新築」で設置されるということには疑問を禁じ得ない。再編で子どもたちに多様な選択肢を与える必要性については一定程度理解はできるが、現状以上の規模の大きな高校が必要とは思えない。大規模校の設置をなくし、中規模校を19校~21校程度を設け、小規模校と合わせれば、全県での20校程度から25校程度に増やすことができる。子どもたちに、学校規模の選択肢を与えることも大事かもしれないが、学校数の選択肢を与えてあげることも同じくらい大事ではないか。また、拠点校という位置づけは、中・小規模校との格差を制度化するもので強く反対する。	同上
人口減や公共交通機関の衰退を考えると、大規模校は富山県の実情に合わない。通学の利便性や地域とのつながりを重視した学校規模や地域配置を 求める。	
大規模校のいいところは部活動の種類が豊富なことだが、クラブチームで様々なスポーツをしている子も多い中、部活動の選択肢が少なくても、その中からやったことのないことにチャレンジしたらいいと思う。大規模校で切磋琢磨できるという、確かにそんな面はあるかもしれないが、大勢いるから切磋琢磨するのはあまりにも単純な考えだ。クラスに30名しかいなくても十分切磋琢磨できる。大規模校でも小規模校でも切磋琢磨はできる。子どもが減るから学校の数を減らす単純な構想には全く賛同できない。この機会に、富山県しかできないことをやってほしい。大都会ではできないことをやってほしいと切に願う。	
「令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿(案)」には極めて問題があるため、この案を撤回し、計画を抜本的に見直すことを求める。あまりにも乱暴な高校つぶし計画である。県全体の募集定員は大雑把すぎるうえに、全県で20校程度とする根拠が何も示されていない。適正規模の検討が行なわれておらず、平均の募集定員を定める理由も不明である。学級定員、学級数、公私比率、普通科割合、4学区ごとの配置バランスなどを一切示さずに「1学年あたりの募集定員」のみを決めるのは不合理。こうしたことに加え、県議会での知事の「すべての高校が再編対象」との答弁は、いっそう不安と混乱を引き起こすものだ。	教員配置や開設科目、部活動数などを充実し、生徒の選択の幅を広げたいと考え、配置数を「目安」としてお示ししました。 基本方針(案)では、1 校あたりの募集定員を現在の平均(約 180 人)より多い 200 人程度、全体の募集定員を 4,200 人程度、配置数の目安を 20~22 校程度と修正いたしました。

ご意見	県の考え方
素案を基にすると受験生の 25%以内が大規模校に、中規模校へは受験生の 65%以上。そして受験生の 10%以下が小規模校へという目安になる。素案の高校再編は、少子化に伴う現状の統廃合の域を脱していないのではないか。高校生の大方が高等教育機関等への進学を考えることを起点にすれば、大規模校はつくらず、中規模校を中心として、学科構成パターンは、(A)(B)(C)(F)とし、小規模校は、(B)(F)のパターンとすることで生徒の能力・適正や興味・関心等を踏まえた学びの実現を図り、予測困難な時代到来への対応とすればと考える。	今後、教育内容と学校規模の組合せなど、具体的な高校づくりについて検 討してまいります。

Ⅱ. 「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」

ご意見	県の考え方
統廃合により、長年培われた学校の文化や伝統が失われる可能性があるため、対象となる学校の伝統や文化を新学校に継承する仕組みを設ける必要がある。部活動では活動場所や指導者の確保を事前に調整する必要がある。	
志願者の多い、富山中部高校や富山高校で1クラス増やしてほしい。優秀な成績のよい生徒が志願してきているのに、たくさん不合格にするのは富山県の損失である。富山市内でも北は中部、南は富山という感じで、勉強の好きな生徒が集まっている。八尾高校について、富山の南側の進学校として、残してほしい。ニューヨークタイムズの2025年いくべき旅行先として富山市が選ばれたが、その中におわらがある。八尾高校の郷土芸能部ではおわらに取り組んでいる。富山西を吸収し、クラスを増やして発展していってほしい。いずみ高校について、市の中心にあり通いやすいが、総合学科ではなく普通科にした方が大学進学しやすいと思われるので、普通科にしたらよい。	これまでの本県の教育実績を踏まえながら、こどもまんなかの視点で検討 を進めてまいります。
現在の34校を20校程度にするのはあまりに極端で反対だ。これまでの 高校設置の経緯をベースに考え直すべきだ。生徒急増期に十分な先見性も ないまま新設した高校からなくす方向性もあるのではないか。	
この(案)に従えば、中学校卒業生に占める募集率、普通科割合の学区ごとの均衡を保つことが一層難しくなってしまう。	
定員割れの学校を統合する意見があるが、子どもによって学力が異なることを考えて再編してほしい。同じ偏差値の学校を統合するなどもあるのではないか。	生徒が一定の通学時間内から、多様な選択ができるよう様々な学科構成や 規模の学校をバランスよく配置できるよう検討してまいります。
素案にある「バランスのとれた配置」からは、具体的なものが見えないため、不安がある。公共交通機関の利便性から、市内に集中しすぎないかを 心配する人が非常に多いと思う。	

ご意見	県の考え方
高校が無くなった自治体の衰退は必至である。現在定員割れの学力上位校の募集定員を減らし、学力下位校や地元の産業の担い手づくりに貢献している職業系の高校を存続させてほしい。	高校があることで、地域に高校生が行き交い、賑わいが生まれるなど、高校は地域の活力につながる大切な存在であることも理解しておりますが、高校存続を地域づくりの目的として捉え、高校再編を地域課題として扱うことについては、「教育」本来の趣旨とは違うのではないかと考えております。高校再編を含めた「教育」については、「こどもまんなか」の視点で、検討してまいります。
地域にとっての学校の存在の重要性を十分考慮することは「子どもの学習権保障」と矛盾しない。市町村のエゴであるかのような決めつけは間違っている。	
富山県は、15 市町村からなるコンパクトな県であることから、1 市町に高校を最低 1 校の配置が可能ではないか。そして、4 広域圏のバランスを考慮して残りの学校を配置してはどうか。	
学校の統廃合により、公共交通機関が十分でない地域では通学手段が限られ、親の送迎負担が増える。小学校や中学校に行っている交通手段に対する補助的な行政対応が高校にも必要になるだろう。スクールバスの運行を拡充したり、遠方の生徒の通学負担を軽減するため、交通費補助制度を導入するなど、通学コストを抑えることが必要である。新高校を駅の 2km 圏内に設置したり、交通機関が近い場所での設置や統合を考えてもらいたい。駅近が難しければ、バスのピストン輸送やバスターミナルの設置など、通学保証の学校設置者としての責務を果たしてほしい。	令和4年度に実施した「県立高校のあり方に関するアンケート調査」の結果では、高校選択の際に重視することとしては、「自宅からの距離や時間などの通学条件」の割合が「成績」に次いで高かったことから、「生徒が一定の通学時間内から、多様な選択肢ができるよう様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置する」案といたしました。
近所に高校があると、交通費が軽減するメリットもある。大規模校が中心 部に集約されることで、通学の費用や時間の負担も出てくるかと思う。	
今後、公共交通機関の維持、運賃の値上げなど、通学の便が悪くなることが予想される。全体として、通学距離と通学時間が長くなる生徒を増やす 案は根本的な矛盾を抱えている。	
6ページ「移行準備校」 今ある学校が古い良くない学校と言っているのではないか。	現在でも各高校では、魅力向上に取り組んでいます。これらすべての学校 を「移行準備校」とし、魅力ある高校づくりを、検討してまいります。
再編結果を小出しにし、現場の教職員と在校生を苦しめるのではなく、速 やかに完成した姿を見せて県民の判断を仰ぐべき。再編してよかったと思 える姿を提示してほしい。	今後、具体的に議論を深め、将来像の明確化を図ってまいります。

Ⅲ.「目指す姿」の実現に向けた検討方針

ご意見	県の考え方
「中高一貫校」を導入していないのは要らなかったからだ。富山が遅れていると卑下する必要はない。他県では、中学入試競争の激化が起こっており、選択肢を増やすという理由だけで導入することは危険だ。	大半の都道府県で設置される中、生徒の選択肢を広げる観点からも、探究活動や教科横断的な学習を深める「STEAM」や、国際教育を実践する「グローバル」について、継続的かつ計画的に学べる中高一貫教育校を開設したいと考えています。今後、目的や役割・機能を整理し、市町村教育委員会等とも協議しながら検討を進めてまりいます。
国際バカロレア認定校設置は適切ではない。地方自治体が一部の人に偏った教育費をかけることになり不公平ではないか。また、この学校で学んだ子どもたちは、多くが地元から離れていくことが想定される。そうなれば、富山県内で人やお金が環流するかは疑問である。子どもたちが地元に残ってくれるような学校が大切で、そこに教育費をかけていくべき。「地方人口減」の観点からも「バカロレア認定校」には、疑問が残る。公教育の目的は、『人格の完成』の実現、『心身ともに健康』な国民の育成、国民が平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な資質を備えることである。	国際化の進展により、日本人の海外進出と、外国人の来日の双方がより進んでいる現状において、子どもたちには、日本や富山県の理解を深めながら、これまで以上にグローバルな視点を育む教育が大切になり、県としても、世界に羽ばたく人材を育てる必要があると考えている。このため、「第1期にグローバル教育に重点を置く学校を開設し、その取組みを検証しながら認定校のニーズや効果を整理し、さらに議論する」案といたしました。
総合学科には、全国募集の導入を盛り込んでいただきたい。小杉高校にある美術・スポーツ系列に全国から芸術やスポーツ(柔道・野球・女子ハンドボール)に優れ、意欲・興味・関心のある生徒を広く募集すべき。	全国で導入が進む「全国募集」で、県外生徒に選ばれるためには、学校に 魅力と特色があり、全国にアピールできる教育活動が行われている必要が あります。8つの教育内容のうち、①国際感覚を持って海外と関わる人材
県内の少年スポーツ界では、県外の魅力ある私立学校(高校、中高一貫校など)に進学する生徒が増加傾向にあることから、県外へ転出した子どもたちの数以上に、県外や海外からの生徒を本県に受け入れるべき。その施策の一貫として総合学科、職業系専門学科にも全国募集や外国人枠の導入を盛り込んでもらいたい。	を育成する「グローバル」、②スポーツや芸術文化など特色ある学びを推進する「未来創造」、③地域の企業等と連携した独自性ある学びを実践する「地域共創」の3つは、全国募集に必要な魅力ある教育活動になり得ると考えており、具体的な高校づくりの議論の中で検討してまいります。
普通系学科のグローバルにおいて、国際感覚をもって海外と関わる人材の 育成を目的とするならば、優秀な外国人の生徒を本県高校教育に受け入れ るため、外国人枠に親和性があるとすべき。	今後、教育内容と様々な学校・学科等との親和性など、具体的な高校づく りについて検討してまいります。
統廃合が進めば、空いた学校等の施設は寄宿舎として利用できるので、山間部や、氷見、朝日といった県の端の地に暮らす人でも、中央の高校を選べるようになると思う。また、本県に海外や県外から生徒を広く受け入れること、広く地域住民に生涯学習の場や学校開放(スポーツ活動)の場を提供するなどの施策が必要。	今後、県立高校の再編統合に伴い不使用となった校舎、跡地の有効活用に ついても検討してまいります。

ご意見	県の考え方
高校再編によって通学の困難が懸念されるが、学校に通う発想ではなく、コロナ禍でできていたリモートで行う授業を、通信制教育にならって、全日制の学校でももっと推進するべきではないか。 実習や集団活動を基本とする教育以外で、家庭学習でいけるものは積極的にリモート化し、全体的に生徒の学校内での拘束時間を短くするように努め、週あたりの登校日自体を減らすようにすれば、教員の負担過多や部活動地域移行の課題なども進めやすいのではないか。	高等学校における遠隔授業の実施に関する事項(学校教育法施行規則等) を踏まえ、全日制高校で実施可能な内容を整理してまいります。
進学や就職を考える際、従来の学科体系のほうが分かりやすい可能性があり、「新時代ハイスクール」の学科が大学や企業に適切に評価されるかはわからないことから、進路指導の専門家を配置し、学科選択時の支援を強化することが必要である。	
専門的な教員を採用するにあたっては、外部からは無償ボランティアではなく相応の予算を用意すること、内部の現教員に対しては現在の給与水準からレベルアップに応じて上昇させることが現場に活力を与える。建物などハードに予算を割くことよりも、方針を立てる人・現場に立つ人など教育において大切なソフト面を重点的に扱うことが、構想を実りあるものにすると考える。	活力ある新時代とやまハイスクールの実現に向け、民間人材の活用や地域 の企業・高等教育機関など外部との連携を強化してまいります。
普通系学科が従来のレベルから STEAM、グローバル、未来創造、他 2 つのようにそれぞれの方向に専門性のレベルを上げていこうとしているものと思われる。教育現場がこのような変化に耐え得るために、外部からの専門的な教員(教育学部以外の学部卒業者や、各分野での博士や修士)を採用したり、そのような専門性・準専門性を持った教員を現教員への研修者や教育コンサルタントとして利用するなど、積極的に外部の資源(リソース)を活用されるのがよいかと思う。もっと NPO 等の外部の力を活用する事を考えた方が良いのではないか。	
新しい学科編制が本当に効果的なのか、十分な実績がないため不安が残る。教員が新たな教育方針に対応できるよう、教員向けの研修プログラムの強化や、外部の専門家や企業との連携で授業負担を軽減し、指導の質を向上させることが必要である。	
よりよい教育のために、箱モノにお金をかけるのではなく、教員を増やし、教育内容を充実させることにお金をかけてほしい。多様な選択科目は 県単措置で教員を増やさないと設定できない。県単独措置を何人置くの か。	生徒によりよい教育を提供できるよう、教員の「働きやすさ」と「働きがい」を両立させ、ウェルビーイングの向上に努めてまいります。
新たな学科・カリキュラムの導入により、教員は、研修や準備が増え、負担が増大する可能性がある。経験の浅い教員の適応や教員一人あたりの担当業務が増える可能性がある。地域ごとの特色ある教育プログラムの提供、生徒の学びの多様性の確保、外部評価機関などを活用し、定期的に教育の質をチェックすることが必要である。	

ご意見	県の考え方
入学試験を各校独自に実施し、学力レベルや優先的に勉強する分野が中学生に分かる方式にすべき。例えば、『STEAM』や『グローバル』の学校は、成績最上位層が対象になるため、現行の県内一律の入学試験よりも高い学力レベルを要する独自の入学試験にすべき。中学校の学習範囲から将来を見据えた学習は可能であり、中学生にとっても、高校入学前からその分野の意識を高められるメリットがある。	これまでも、「入試制度の見直し」を求める声が多かったことから、基本 方針(案)では、入試制度の見直しについて記載いたしました。
「公私比率の撤廃」「私学への就学支援金の拡充・教育の無償化」が進む 中、施設設備が整備されている私学が多い中で、公立高校の環境整備が重 要である。	大規模校の設置方針を踏まえ、大規模校の設置に必要となる新築等や設備 の整備、中規模校・小規模校の長寿命化対策や増改築などを進めてまいり ます。
募集定員はあくまで「受け入れ可能上限人数」である。この数字が充足していないことを殊更に問題にして学校統廃合の口実にすべきではない。標準法の教職員定数は「実生徒人数」ではなく、「収容人数」にもとづいて算出される。公私比率は現在、県立:私立=70.8:22.6となっているが、全国的にも低い募集率を引き上げるべき。	令和8年度以降、公私比率を設定せず、各設置者が適正な定員管理を行う
全ての高校が再編の対象とのことだが、実質的には存続する高校と閉校する高校という捉え方になると思う。各学校には、特色・相応の歴史があるので、閉校となってしまう高校を少しでも減らせないか。県立高校の再編と並行して、現存する私立高校との調整も必要である。年少人口がどんどん減っている中で、県立高校だけを再編しても、歪なバランスになっていくと思う。私立高校の方も、相応に定員を減らしていってもらえるよう、調整をお願いしたい。	こととなりました。県立高校の令和8年度の募集定員の設定にあたっては、従来どおり、①1学級の定員は40人を標準とすること、②普通科と職業科の割合(普職比率)、③地域別の中学校卒業予定者数、④入学志願者の推移や現状、⑤過去からの学級増減の経緯を踏まえるほか、⑥各県立高校の魅力化とその発信などの観点や⑦今回の合意内容に基づく「適正な定員管理」を行うため、これまでの公私比率(R7年度県立全日制70.8%)設定時からの継続性の確保にも配慮し、審議を重ね、判断・決定する必要があると考えています。
再来年度の学級定員、学級数、公私比率、普通科割合、4学区ごとの配置 バランスなどはどうするのか。拡充してきた少人数学級を今後どうするの か。しっかりした議論が必要ではないか。募集定員の前提となる公私比率 を検討している「公私立高等学校連絡会議」を公開することも必要だ。	
不登校や行動における問題など、(主として高校生年代の)学校不適応の生徒について、若者の社会への適応、社会的自立への支援を目指した公的機関の設置の議論を進めて欲しい。不適応の若者が、知見、経験豊富な人間味のある教師、スタッフに囲まれ、安心してリスタートを切ることのできる環境を望む。学力の保障を得ること、キャリアガイダンスを含む発達段階に応じた進路指導を行うことができる機関の設置や通信制高校の拡充を考えていただきたい。	近年、不登校生徒や外国籍生徒等が増加する中、多様な生徒に対応した教育を確保する観点は重要と考えており、幅広い視点から検討を進めてまいります。

ご意見	県の考え方
近年、障害があっても(療育手帳等を持っていても)高等学校等へ進学するなど、進路選択の幅が広がってきている。インクルーシブ教育という言葉もよく耳にするようになってきた。他県では、高等学校と高等特別支援学校の在り様にも様々なものが見られる。こうした例も参考にし、「新時代とやまハイスクール構想(仮称)」が障害の有無に関係なく皆が学び合える「富山県の教育構想」になるよう、特別支援学校も巻き込んだ県立高校の検討になることを願う。	同上
「落ちこぼれ」をなくし、全体の底上げを図ることで、全ての子どもがいきいきと、のびのびと学校生活が送れるようにすることが大切ではないか。	
素案の中では、高校に行く当事者、高校生や、今後行く中学生や近年行っていた高校卒業世代(18~20代位)への意見反映、意見聴取は行われたのか?次世代を担う現在の小学生の保護者にも意見を聞いたらよい。意見の聴取は声を出しにくい環境の子どもたちや高校終了の世代にも的確にアプローチすべき。少数であっても、高校を選択する可能性があるような方々へは必ず意見を聴き取るべき。弱者、少数者への目配りを求める。	
行政機関のパブリックコメントでは、「一応、県民に意見を伺った」という体裁をとるためのアリバイ作りの側面があると思う。県立高校の再編は、県民全体を巻き込んだ大きなテーマであることから、結論ありきではなく、パブリックコメントで寄せられた意見のうち、「なるほど」と思われるものを採り入れてもらいたい。	これまで同様、引き続き、様々なご意見をお聞きしながら、検討を進めて
高校生と教職員アンケート結果として、将来の高校像については「学習内容の自由さ」「共通教科の充実」「中規模校」が多く求められている。子ども真ん中政策をいうなら、子どもの権利条約制定を目指すなら、子どもの要求にまっすぐに答えるべきではないだろうか。	まいります。
再編によって学校の特色が大きく変わり、保護者や生徒への混乱を招く可能性がある。段階的な再編で、在校生への影響を最小限にするため、統廃合前に保護者・生徒との意見交換を頻繁に行い、納得感を得るようにしてほしい。	

ご意見	県の考え方
1 クラス 40 人は多いので、36 人や 34 人や 32 人の偶数で少人数にしてほしい。学校生活でグループなどを作る際には偶数の方がよい。	
これからの教育の目標・目的はアイディアカ、独創力をいかにして育てるかにあるため、現在の 40 人学級では絶対無理である。生徒一人ひとりの発言を軸にさらに深めていく授業こそがこれから求められる授業ではないだろうか。生徒のアイディアカ、独創力を育むためには、能動的な学びの場を提供していくことが必要だと考える。現在、日本の大学で行われているようなゼミ形式の授業を先取りして、高校の授業の中に取り入れていくことだと思う。	1学級を 40 人未満とする少人数学級を拡大していく場合、国の財政措置
生徒の学習権を保障し、ゆきとどいた教育をすすめるため、子どもが減っても教育予算と教職員数を減らさずに、生徒減に応じた段階的な学級定員減、すなわち少人数学級の拡充を今後も力強くすすめるべき。(例えば、40人6学級の240人ではなく30人8学級の240人の学校の方が望ましい)。そのためには、県独自の努力に加えて、一刻も早く、義務・高校標準法の改正を行う必要がある。「教育県富山」が率先して、「学校標準法」改正を求め、「少人数学級、教職員増」予算を各自治体に充てるよう強く国に働きかけて欲しい。その実現が叶うまで、「教育県富山」として「人への投資」の考えで、県単独予算で措置して欲しい。それこそが「教育県富山」と言われることになる。	が減り、県単独での人件費負担の増額が見込まれるため、現時点の国の学級編制基準の下では、慎重な検討が必要であると考えています。個に応じたきめ細かな指導を充実させることは重要であり、例年、国に対しては、教職員定数改善等について要望しているところです。今後も、中学校における少人数学級の動向にも留意しながら、標準法の見直しや新たな教職員定数改善計画の策定について、国に強く働きかけてまいります。
生徒一人一人の個性や能力、理解度に合わせた教育を行い、多様な進路実現を可能にするためには、1 クラス 30 人または 20 人といった少人数クラスでの学習のほうが効率よくその目標を達成できると考える。 1 学級 40 人では教員にとっての負担が大き過ぎる。子どもも大人も行きたくなる学校を創ってほしい。	
スクールミッションを学校に押し付けてはいけない。	スクールミッションについて、文部科学省は、①在籍する生徒及び教職員その他の学校内外の関係者に対して分かりやすく当該高等学校の役割や教育理念を示すものとなるよう再定義することが望ましいこと、②スクールミッションの再定義は、各地域や高等学校の実情等を踏まえ、各設置者において適切な時機を捉えて行うことが望まれること、としています。
若い人は、学びたい内容やレベル、環境がしっかり整わないと、どんどん他へ行く。富山県は特に若い人(特に女性)の県外流出が多いと聞くので、抜本的な改革を望む。	
統廃合により新設される学校の制服や教材といった入学準備金のコスト増 を防ぐための補助を検討してほしい。	今後も、幅広い視点からよりよい県立高校づくりに向け、検討してまいり ます。
富山県の中学、高校生にも海外旅行を体験させてあげて欲しい。	

個別のご意見

※意見者等を特定できる情報及び他者を中傷するような表現を除いています。

I. 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿

No.	ご意見
1	↓ │長期計画をたて展望をもっての高校の在り方を作ることはとても良いことだと思います。
2	今ある学校、今やっている施策をどう評価し、今後どうしていくのか。バックキャストだけではなく、フォアキャストの視点からの検討を同時に行うべきです。
	Oページ 県立高校のあり方検討の進め方
3	4行目「教育を提供する」は不適切。教育は提供するサービス(商品)ではありません。
	7行目「バックキャスティング」というがR20の目指す姿が全く描けていない。したがってそこから逆算した途中の姿を描く構想は破綻している。
4	1ページ 「新時代」の定義が暗すぎる。新時代という言葉から連想する明るさが全くない。
5	[学校規模と配置数について] 1、学校間の学力格差の拡大と高校受験における一段の過激化の恐れについて 現実の社会は学歴社会です。学歴別賃金差 (「所得別の進学率、学歴別の生涯賃金」労働政策研究・研修機構調べ (H28) より) がそれを物語っています。ですから、高校を偏差値に基づいて序列化し「ほとんどの生徒が大学等へ進学する高校」、「進学と就職が混在している高校」、「多くの生徒が就職する高校」に大別されます。生徒側からみれば、高校進学率 99.3% (ほぼすべての中学生)です。生徒の成績で進学する高校が決まります。そして、その様な現状の中で、大規模校の学科構成なども含めると、大規模校が県内のエリート校化することは容易に想像できます。これでは、少子化の中でますます受験競争が過熱化し、小中学校の児童生徒間に、より過度な競争意識が起き、「不登校児童生徒数」、「いじめ」、「暴力行為」、「自殺」が今後とも増え、異常な学校環境にならないか懸念されます。 2、教育格差の拡大と少子化の更なる深刻化の恐れについて日本の教育は、一斉に平等に教えられても、理解したかどうかは、その子や家族の責任になります。なので、塾にいくなど児童生徒の家庭の経済状況(親の所得など)如何によって、その子の理解度(学力)も大きくかわってくる(教育格差)ことが、問題になっています。これは所得の低い世帯ほど大学の進学率が低い。また、学歴により生涯賃金に大きな差が生じているからです。富山県でも教育格差が明白になっています(「子どもの貧困の社会的損失推計」日本財団・三菱UFJリサーチ&コンサルティング 2016)。このような状況下で、大規模校を中心により学校間格差(偏差値による)がつけば、少子化の中で、競争がより過激になり、教育格差が今より拡大し、ますますプトや進路に大きな差が生まれてきます。また、このように経済的格差如何で、子どもに対して十分な教育を受けさせられないという社会的雰囲気が、子どもを産み育てようという意欲の喪失に繋がり、ますます少子化が深刻化していく。これらは大きな問題だと考えます。
6	県立高校の再縄問題について 令和20 年度までに実現を目指す県立高校の基本目標を実現するためには、今日の教育制度における問題・課題を踏まえた構想でなければ、素案の副題にあるような「学びたい、学んでよかったと思える 県立高校」にならなくなることが懸念されます。そこで、まず[県立高校のあり方検討の進め方]、[県立高校を取り巻く状況の変化]について意見を述べさせていただきます。 1、小中高の12 年間の教育をほぼ終えた 18 歳の意識調査 (「国や社会に対する意識 (6か国) 調査」日本財団 2024) があります。・「学校で勉強する意味として重視してきたもの」、「仕事を選ぶうえ で重視するもの」、「なりたい職業」の調査項目に対して、回答項目の「特になし」が、日本は他国に見られない多さでした。何か諦観や無力感の様なものが感じられます。・「自分のしていることには 目的や意味がある」、「将来の夢を持っている」、「自分は他人から必要とされている」、「自分には人に誇れる個性がある」という調査項目に対し「はい」と回答する肯定率が他国と比べて大変低いも のでした。自尊感情や自己肯定感が低い状況が見て取れます。予測が困難な時代に際しては、高校を卒業した後にも様々な判断を求められる機会に直面することになるのに、学びへの意欲や自己肯定感が ともに低い現状、これは、学校教育のあり方が問われている側面もあると考えます。再編を検討する際に、ここをどう評価し、どう踏まえるのかということです。 2、小中の義務教育9年間をほぼ終える15歳の意識調査 (「先進国の子ども幸福度調査」ユニセフ 2020) があります。・精神的幸福度は、OECD38カ国中37位と大変低いものでした。「不登校児 童生徒数」、「いじめ」、「最み行為」、「自殺」が増え続けている学校環境がバックボーンにあり、中3生にストレスが積みあがっているのではと考えられます。と大変低いものでしたを身に付けている割合についても37位でした。いじめや暴力行為が増え続けており、いじめの重大事態が1000件を突破するなど、児童の発達に異変が起きているのではと終さされます。国連の子ども を身に付けている割合についても37位でした。いじのや暴力行為が増え続けており、いじめの重大事態が1000件を突破するなど、児童の意味の可はと考えられます。また、2010 年には、「子どもの数が減少しているにもかかわらず、過度な競争への不満が増加し続けている」とも指摘(国連の子どもの権利委員会の日本の子どもに関する「懸念と勧告」より)しています。高校は、進学率が99、3%に達し、中学校を卒業したほとんどの生徒が進学する教育機関となっています。高校の再編問題を通して、この様な義務教育段階の問題を国連の子どもの権利委員会が指摘するように、「教育の質を維持しながら学校制度の競争的な性格を抑制」する方向に繋がるようにすることも大事な視点ではないかと考えます。

7	新聞報道によると、2024年度の子どもの出生数は70万人を切り、一方不登校やひきこもりの人は34万人を超えたと言う。私はこの数字を見て、唖然とした。そして改めて思う。 この新しく生まれてきた子ども達を一人も取り残すことなく、一人ひとりが自分らしく生き生きと社会で活躍できる人間に育てなければならない。それが教育の一番大きな課題で ある。今までの教育方法でよかったのか。今の教育制度でこの先よいのだろうか。一度立ち止まって考える時期に来ているのではないだろうか。
8	富山県の未来は今の中学生、高校生にかかっていると言っても過言ではない。偏差値で大学を選ぶ時代は遠からず終焉を迎えるであろう。人はやりたいことが見つかれば自然に集中し努力するものである。自分がみつけた夢をどう実現させていくのか、その方法なり、道筋をたてる力をつけていくのが、これからの高校教育に求められる。高校の数ありきではない。富山県民はどんな教育を望んでいるのか、行政はどんな教育を提供したいと思っているのか、こういう教育をしたいから、そのための施設・設備はどこに、いくつ必要か。そこから議論が始まるべきではないか、と考える。教育には時間とお金と手間(人)がかかる。しかし、教育水準の高いコミュニティでは、(1)犯罪発生率が低く、(2)住民の公衆衛生意識が高く、ワクチンの接種率、健康診断の受診率が高いので医療費が低く抑えられる。(3)正社員率が高いので平均年収も多く、したがって納税額も多い。(4)生活保護費の受給者率も低い。教育の効果は社会のあわゆる局面であらわれる。富山県は山もあり、海もあり、自然豊かな土地である。この自然環境の中から、次のAI時代を生き抜く人を育てることがこれがあり、あり目的である。そのために、これまでがない全く新しい発起で教育行政を進めて欲しい。
9	素案を拝読いたしましたが、私の理解が及ばないことが多々あることや、私が勤務する特別支援学校についても疑問があったので投稿させていただきました。
10	新時代と掲げているが、現在の価値観や社会的な状況が将来も持続するという前提が強すぎるのではないか。公教育が担うべき、社会統合の役割を重視すべきである。学校の序列 化は、これまで以上に社会の分断につながる危険性がある。
11	まず、予測困難な時代に学校再編を進めること自体が矛盾しているのではないかと感じます。将来の変化が見通せない中で、なぜ現時点での再編が最適なのかが明確ではありません。県としては、こうした不確実性に対応できる人材の育成や、人口増加の施策が急務であると考えます。そのためには、ファミリー層が県内のどの地域にも移住しやすい環境を整えることが重要です。都市部への人口集中ではなく、県内各地でバランスの取れた人口増を図ることが、変化の激しい時代に柔軟に対応するための近道ではないでしょうか。
12	「県立高校の基本目標」は人格の完成を目標とし、学習権の保障を強く打ち出すべきです。
13	2ページ 県立高校の基本目標 「新時代」に適応し、未来を拓く人材の育成「時代に適応する」などということを教育の目標に掲げるなど、周りに合わせることを目標に掲げるから「指示待ち人間」になってし まうのである。「未来を拓く人材の育成」についても人材の育成が教育の一義的な目標なのか。基本目標が根本的に間違っている。「基本目標」が間違っているので、計画全体が 土台から間違っている。「現在の全ての県立学校(全日制)を再構築して新たな学校を開設する『新時代とやまハイスクール構想』」再構築の定義が不明。個別最適な学びと協働 的な学びは両立しません。個別最適な学びは要らない。レジリエンスはビジネス用語。意味がわからない。ウェルビーイングはいい加減やめてもらいたい。
14	この基本方針は、単なる参考意見ならいいのですが、何らかの拘束力を持たせるなら、抜本的な検討が必要だと思います。理由は以下の通りです。 この方針では今後富山県、日本を背負う優秀な県民にはどのような能力、スキル、知識、教養、姿勢を身につけてもらう必要があるのかについての考察の結果が見えません。それ なしでの方法論ばかりの議論は無意味、いや、有害でしょう。 他の国では、他の自治体ではどのような議論があり、どのような結果となっているのかを調査されたのでしょうか?教育関係で研究をおさめた、または知見を持っている人の意 見は聞いているのでしょうか。それらが全く見えません。知性、教養、洞察が感じられないのです。大丈夫なのでしょうか?
15	「高校再編」の根底にあるものとして、「ウエルビーイング」を掲げる富山県が、どんな地域、富山県がいいかを考え、富山県の良さを確認することが大切です。都会と同じでな くてよいと思います。富山から若い女性が都市部に流出している現状があります。ある会合でその理由(生き苦しさ)が述べられるのを聞きました。その生き苦しさを少しでも改 善するために以下の3点を大事にする教育が必要だと考えます。(1)自分らしく生き生きと生活・学べること (2)「周囲を大切にする」環境や人 (3)自由に物が言える雰囲気
16	「新時代とやまハイスクール構想」に異議あり 今回の高校再編構想には多くの問題点がある。確かに、少子化の波は止まる様子がなく、高校教育、高校の在り方が問われていることは理解できる。この難問をどうとらえ、民主 的に改革するかは教育行政の責務であり、多彩な県民世論を結集せんと今、取組を展開されている皆様に心からの敬意を表したいと思う。しかし、観点が間違っており、方向がい いとは思われません。史上最多の不登校、いじめや校内暴力は何故なくならないのか。極端なまでの学力格差はどうして生まれるのか。自主性・自立性に乏しい青年が多いのはな ぜか。一言で言えば、日本の教育が過度な競争主義に陥っているからだ。主権者として平和な未来を創造する人間の育成が学校教育の目的ではなかったか。「新時代HS」は8種 類の学校を提示しているが、結局は学力格差により振り分けになってしまうのは必至だ。"できる子"は中高一貫校、"できない子"はエンパワーメント高校へとなる。課程の経 済格差がそれに拍車をかけることにも。新田知事は自身の富山高校時代の大学進学成績重視を振り返って「今が考え方の転換時」と述べているが、根本にメスを入れない改革は混 乱を深めるだけでしている。
17	従来からの高校にとらわれない抜本的で、しっかり考えられた構想だと思います。特に県外出身者からの視点からは、富山市内にいわゆるエリート校が2つあることは、この少子 化の中で今後の高校の再編を大きく妨げるものだと思っておりました。これから、具体化していく中で、それぞれの高校への愛校精神によって、様々な抵抗があると予想されます が、郷愁にはとらわれず、しっかりと次世代へ残せる枠組みを計画していって下さい。よろしくお願いします。
18	「教育内容」が教育課程上、具体的にどんな科目(講座)になるのかわからない。教育プログラムとは何のことか。
19	大学受験への影響 学科編成が多様化することで、一般的な進学校と異なるカリキュラムが組まれ、大学受験対策が不十分になる懸念。特に難関大学を目指す生徒にとって、学校の学習内容だけでは不 安が残る可能性。進学希望者向けに特化したコース(難関大学対策講座など)を設置。予備校との提携やオンライン学習支援を提供し、大学受験対策を強化する。

20	STEAMなるものは学術的な基盤のない一過性の流行に過ぎない。過度に傾倒すべき代物ではない。アートとリベラルアーツをごっちゃにしている時点でアウト。
21	グローバル人材の育成 グローバル化が進む中で、英語や異文化理解、海外との交流を強化する。特に、オンラインを活用した海外の高校との共同計画や、外国語でのディベート・プレゼンテーションを 積極的に取り入れる。
22	デジタル・テクノロジー教育の充実 科学技術の進展に対応するために、プログラミング・AI・データサイエンスなどの基礎教育を充実させることが必要です。単に情報の授業を行うだけでなく、実社会での活用やテ クノロジーと倫理・人間性の関係を考える教育も重要です。
23	普通系学科の④未来創造において、部活動の強化とありますが、段階的に中学校の部活動が衰退する中、その影響は高校の部活動にも必ず大きな影響があると思います。高校の部 活動の強化とはどのようなイメージかつかめません。
24	さまざまな人と協働して社会参画できるように、学校規模ではなく地域との関わりを大切にしてほしいです。地域とのつながりや他校生と交流できるカリキュラムを組むなどで学校外の人やさまざまな人と関わる機会を増やすことはできるのではないかと考えます。地域との関わりを重視した特色あるカリキュラム(総合的な探究の時間など)は魅力的であり、ふるさと富山を知ること、考えることにつながると思います。
25	【学習指導のあり方】 現在の県内一律の入学試験のために、受験勉強が、中学生の学力や適性、関心に関係なく、同じ問題集、同じテストで点数だけを競う受験勉強になってしまっています。結果、基礎学力の身に付いていない中学生が、高校受験のための応用問題、発展問題に時間とエネルギーを奪われ、「勉強」に疲れています。「勉強」に自信がないだけでなく、無力感を感じている生徒もいます。する。また、中間層以下では、得意分野だけで点数を取ろうとし、総合点では分からない各教科分野の基礎学力のバランスの悪い生徒がおり、進学後に高校の勉強に躓き、学習意欲の低下を招いています。中学生までは、身体の成長と同じく思考力も成長に個人差があります。中学生の時は理解が難しくても、高校で、基本問題を反復学習で学び直せば、多くの子が中学までの基礎学力を習得できます。中学校から高校の間で、必要に応じて学び直せる仕組みが必要です。本人の努力不足とみなし生徒側の責任にして復習を個人でさせるのではなく、中学、高校側の責任として、補習の機会を設けなければならないと思います。高校の学習指導においては、普通科において、どの高校も毎年の進学実績がほぼ同じことが問題だと感じます。これは、目標設定が、国公立大学合格に偏っているために、生徒の学習の負担が大きく、入学時点の学力差が、むしろ拡大しながら大学受験を迎えることになっているからだと思います。補習の機会を増やし、学習方法を見直す指導をして学力差を縮めることが必要です。また、私立大学や推薦入試の受験指導が、肯定的になされていないため、国公立大学レベルの学力に満たない生徒がネガティブな気持ちで、私大や専門学校に進学しています。上位の私立大学に選択肢が広がるような受験指導も取り入れていただきたいと思います。イルクーのでありまで、高校の学力を底上げしていく丁寧な教育が求められていると思います。「で習者海を保持している、アストや宿題でふるいにかけるような教育ではなく、必要な基礎学力を習得させる丁寧な教育が求められていると思います。「で習者海をけられず、怠惰が原因だと生活指導をされ、ますます意欲をなくすのは不幸です。また、こういった成績評価のためのテストや宿題は、採点や提出のチェックをする教員の意欲も低下させると思います。テストや宿題が成績評価のために下われていることが、生徒にも教員にもマイナスになっていると感じます。さらには、補習を通して生徒の学習方法や特性を確認できないことで、福祉や医療の分野との連携が必要な生徒が見落とされているかもしれません。最後に、中学校、高校の、学校や教員の評価が、進学実績が就職実績に基づいて行われるのではなく、粘り強い地道で丁寧な教育が評価され、それを県民が知り理解することが、そどもにとって一番良い教育環境と思います。その環境のもとで、新時代に合った形の高校再編が行われ、生徒が意欲を持って入学し、さらに意欲を高めて卒業する高校となることを願っています。
26	産業との連携の課題 地域の企業や大学との連携を強化するとしても、具体的な枠組みが不透明。実際に地域産業が求める人材育成が可能なのか不明。県内のどこに住んでいても均等に学べるよう、遠 隔授業やオンライン学習を充実させる。地域ごとに特色ある教育プログラムを提供し、選択肢を増やす。
27	地域の強みを活かした教育 富山県は自然や伝統文化、産業(薬・ものづくり)に特色があります。これらを生かして、地元企業・大学と連携した実践的な学びを提供するのが重要です。例えば、地元企業と 物品の共同開発に取り組むなど、地域貢献ができたと実感できる学びをすれば良いと思う。
28	デュアルシステムというが、工場で学校教育を安全かつ適切にどうやって実現できるのか。くくり募集でスペシャリストは育成できない。
29	4ページ なぜ大中小がこの人数なのか。大と中、中と小の間の規模を否定するのは不合理。とくに400~480人の大規模校はいらない。R20の中卒生が6000人で県立 高校全日制の生徒が4200人しかいないのに、現存しない400人以上の学校を2~3校作る必要があるのか。子どもが減るのに超特大校をつくって、その分学校数を減らすの は不合理。400人以上の学校は大きすぎる。教育環境として適正とは言えない。「多様な考え方に接すること」は400人以上いなくてもよい。小規模でも、中規模でも可能。
30	今後14年間ですべての高校を「再編(統廃合?)」するというのは暴論です。大規模校(1学年400~480人)、中規模校(200~240人)、小規模校(120人以下)とする根拠は何か。なぜ、現在11校ある121人~199人の規模、現在2校ある241人~399人の規模を否定するのか、合理的な理由がありません。なぜ、400人~480人の大規模校をつくろうとしているのか。40人学級で10~12学級の学校をあえてつくる理由は何か。大きすぎる学校のデメリットがあり、そもそも学校規模として適正と言えるのか疑問です。また、少子化が進む中で、現行以上の大規模校を作れば、その分減らす学校数が多くなり、通学できる範囲で学びたい学科で学ぶことができない生徒が増えることが予想されます。校舎新築には大きな財政支出が必要ですが、そんなお金があるのなら、今すぐ老朽施設の改修、教職員定数の改善等をすべきです。
31	教師が子供たち一人ひとりに目が行き届き、それぞれの心の状態や、人間関係、各教科の理解度など、十分把握しながら、教育できる規模が良いのではないか。

32	あらたな「大規模校」は適切ではないと思います。せめて、「大規模校」設置方針は今の段階では決めないで欲しいです。「子ども真ん中」という理念に基づくと、今の段階での子どもの本当の思いや考えはわかりません。14年後が不確定な部分があります。高校にも少人数学級が拡充される可能性も大いにありますし、社会の変化も早く、子どもの環境や考え方も変化すると考えられます。「いじめ、不登校、自殺」等が増加の一途をたどる中で、今後ますます生徒一人一人の顔が見え、できる限り全ての教職員が一人一人の生徒を知っており、接することができることが求められると思います。子どもがたくさんいた何十年も前、小中高校のいくつもの学校が大規模校であった時代は、子どもはある意味「放って置かれていた」状態もあったと思います。そんな中でも、うまく学教教育が回っていたかと思います。しかし時代は変わってきました。今から再度その時代の学校規模に戻るのは、無理があると思います。子どもの思いと乖離し、大規模校の定員が埋まらない事態がでてくるかも知れません。その危惧もあるなかで、大きな予算を使い大規模校を建設するのは適切ではないと思います。むしろ、老朽化が進んでいる既存の多くの施設・設備の整備こそが必要です。大規模校では「切磋琢磨」できるとの考えがありますが、小中規模校でも十分その環境はあります。将来的に、一人一人の顔が見え対応しやすく、「対話的な学び」もし易い段階的な拡充での30人規模の少人数学級として、小中規模校(1学年4or5学級以下)が望ましいと思います。そうすれば、自宅から近いところにある程度の数の学校があることになります。そのためには、「教育県富山」が率先して、「学校標準法」改正を求め、「少人数学級、教職員増」予算を各自治体に充てるよう強く国に働きかけて欲しいです。その実現が叶うまで、「教育県富山」として「人への投資」の考えで、県単独予算で措置して欲しいです。それこそが「教育県富山」と言われることになります。
33	小規模校が少なくなりますが、大きな規模の学校は生徒の個別対応も難しくなり、子どもにとっては良くないと思います。是非、小規模校をもっと残してください。また、大規模 校の建物は新築となっていますが、現在の建物を利用し、増築することも経費節減、環境にも大変有効です。既存の学校利用を考えるべきです。
34	まず、昨今の少子高齢化の傾向が好転する気配がなく、子どもの人口がどんどん減ってきているため、それに伴って、県立高校を再編していかなければならないというのは、十分に理解できます。ご担当の方におかれては、大変なお務めであろうとお察しします。ありがとうございます。それについてですが、僭越ながら、次の点について、具申させていただきます。この度の再編によって、現存する高校の規模よりも大きな、大規模校を2~3校設けるということに関しては「反対」いたします。令和7年度の全日制課程の高校のうち、1学年あたりの募集定員が最も多いのは、富山工業高校の320人かと思います。再編によって、これよりもはるかに大きな定員400人~480人程度の高校を、それも「新築」で設置されるということには疑問を禁じ得ません。子どもたちに多様な選択肢を与えてあげる必要があるということは一定程度理解はできるのですが、それにしても現状よりも規模の大きな高校が必要とは思えません。大規模校の設置をなくせば、中規模校を19校~21校程度、設けることができます。小規模校と合わせれば、全県で20校程度とされていたのを25校程度に増やすことができます。子どもたちに、学校規模の選択肢を与えることも大事かもしれませんが、学校数の選択肢を与えてあげることも同じくらい大事ではないでしょうか。
35	人口減や公共交通機関の衰退を考えると、大規模校は富山県の実情に合わない。通学の利便性や地域とのつながりを重視した学校規模や地域配置を求める。
36	生徒数減少のため、1 学級の人数減、あるいは将来的に学校数減(できれば小規模でも残したい)は致し方ないかもしれないですが、大規模校よりも小・中規模校が多い方が良いと 考えます。通学面を考えても、一極集中しすぎない方が良いと思います。
37	大規模校を新築するように読めますが、ただでさえ県予算が苦しいのに、県庁の新築も今後必要かも知れないのに、そんな余裕はあるのでしょうか。今ある建物を利活用する方向 でまず考えるべきではないでしょうか。いくらかかるかも検討せず闇雲に新築というのは、地方財政を悪化させたバブル時代の事業者の発想であり、人口減少時代の富山県には全 く相応しくありません。もっと幅広く、専門的な知見を集め、教育関係者が中心になって、深く、広く考えて方針を決めるべきだと思います。
38	【概要 p 4 】大規模校 大幅な学校数の削減を打ち出しながら大規模校の新設は認められない。しかも拠点校という位置づけは中・小規模校との格差を制度化するもので強く反対します。
39	マンモス校で子供時代を過ごした身としては、大規模校のいいところは部活動の種類が豊富なことです。ただ、今はあの時代には考えられなかったようなスポーツやスポーツ以外のクラブチーム活動があります。そしてクラブチーム活動を行っている子は大勢います。クラブチームで活動しているけれども学校で部活に入らなければならないので、しょうがないから幽霊部員で〇〇部所属、なんて子供も多いのです。私は塾の先生が営業対象の仕事もしているので、先生方から今時の小中高校生の話をよく聞かせてもらいます。今時のクラブチームの種類の多さには驚きます。野球かバスケか書道かそろばんか、なんて時代とは違うのです。また、部活動の種類が少なくて選択肢が少なくても、その中からやったことのないことにチャレンジしたらいいと思います。部活の種類が多くても中学校で初めて〇〇部で〇〇をやった、なんてことは子供が大勢いた時代でも当たり前でした。さらに高校に入ったら中学時代にやっていたことの部活がなく、中学時代になかった部活がある、ということも当たり前のことでした。また、大規模校で切磋琢磨して、という言葉もよく聞きます。確かにそんな面はあるかもしれませんし、そうやって頑張る子もあるでしょう。が、逆に最初からあきらめてしまう子供もいると思います。クラスに30名しかいなくても十分切磋琢磨できます。当然です。5名や6名ではないのですから。30名もいれば足が速い子も成績がいい子もいるでしょう。大規模校でも小規模校でも切磋琢磨はできるのです。子どもが減るから学校の数を減らす、こんな単純な構想には全く賛同できません。この機会に、富山県しかできないことをやってほしいです。大都会ではできないことをやってほしいと切に願います。
40	令和20年度(14年後)に「県全体の募集定員は4,000~5,000人程度と見込まれることから、全県で20校程度(平均募集定員200~250人)とし、学科の組み合わせにより様々な学びの場を提供する。」という案はあまりにも乱暴な高校つぶし計画です。「県全体の募集定員は4,000~5,000人程度」というのは大雑把すぎるうえに、「全県で20校程度(平均募集定員200~250人)」とする根拠が何も示されていません。「適正規模」の検討が行われておらず、平均の募集定員を定める理由も不明です。学級定員、学級数、公私比率、普通科割合、4学区ごとの配置バランスなどを一切示さずに「1学年あたりの募集定員」のみを決めるのは不合理です。すでに「県立高校20校」という数字が独り歩きし、乱暴な高校減らしに対する憤り、不安など様々な悪影響を及ぼしています。さらに県議会での知事の「すべての高校が再編対象」との答弁は、いっそう不安と混乱を引き起こすものです。
41	5ページ 今ある学校と照らし合わせれば、破壊的な計画であることが明らか。

教育内容(学科構成)と学校規模の組み合わせ、配置数の目安について

素案を基にすると受験生の 25%以内が大規模校に、中規模校へは受験生の 65%以上。そして受験生の 10%以下が小規模校へという目安になりますが、誤っているでしょうか。もしこれが概数的な範囲内とすれば、素案の高校再編は、少子化に伴う現状の統廃合の域を脱していないのではと考えるのは間違いでしょうか。現状の統廃合に普通科改革科目をつけたとしか考えられません。高校生の大学を含めた高等教育機関等への進学率は 76.2%。高校生の大方の生徒が高等教育機関等への進学を考えていることになります。ここを起点にすれば、大規模校はつくらず、中規模校を中心として、学科構成パターンは、(A)(B)(C)(F)とし、小規模校は、(B)(F)のパターンとすることで生徒の能力・適正や興味・関心等を踏まえた学びの実現を図り、予測困難な時代到来への対応とすればと考えます。

Ⅱ.「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」

- - □ これまでの経緯をベースに考え直すべきである。例えば生徒急増期に十分な先見性もないまま新設した高校からなくす方向性もある。
- 44 │この(案)にしたがえば、中学校卒業生に占める募集率、普通科割合の学区ごとの均衡を保つことが一層難しくなってしまいます。

県立高校改革の件

- 1. 中国からの希望も多い東大を目指す高校の定員をもう1~2クラス位多くしていただきたいです。京大も含め名古屋大も目指す生徒の力になって下さい。
- 2. それには中部高校、富山高校のクラスを 1~2 クラス多くしてください。今年の状況も富山 80 に対して 128、中部 80 に対して 187 ともう 1 クラス出来る数です。探究科学科の科が 1 クラス位多いのです(志願者が)。折角勉強したい生徒たちが沢山いますので希望をかなえてやってほしいです。普通科はあまり多くないですが、探究科学科に入れなった生徒たちが普通科へ回されてくるのです。すると普通科の倍率が高くなり、普通科で沢山の生徒が落とされてしまうのです。普通科で合格できなかった生徒たちが中部も富山高校も1 クラス 2 クラス位普通科で落ちてしまうのです。折角優秀な成績の良い生徒たちが富山や中部高校に集ってきているのに、たくさん不合格にしては、富山県の損失です。もう 2 クラス中部も富山高校も探究科学科を増やしてください、お願いします。私の娘も富山高校でしたが、全教科出来ましたが、特に数学が好きで得意でしたので本当は探究科へ入りたかったのではと思いますが、普通科にしましたが、ちゃんと国立大の工学部に合格できています。塾は小学校から 1 度も行ってはいなかったのです。富山高校の南側ですので、富山高校の条件はありました。富山高校の先生が塾は行かなくても先生たちが教えますので、大丈夫ですという話(説明会)がありましたので、富山高校に決めたのです。4 人兄弟いますので、一人が塾に行くと皆行くことになると思っておりましたが、末の子が小学 1 年の時、皆塾に行きだしたので、担任の先生に塾へ行った方が良いか聞くと「〇〇ちゃんは塾へ行かなくてもちゃんと大学に入れますよ」と言われたので、そのまま塾へ行きませんでしたが、塾へ行かなくても良いと言われた富山高校に入ったことにより、ちゃんと国立大学に合格でき良かったと思います。ですからやはり、勉強の得意な勉強の好きな生徒たちが折角富山と中部高校目指しているので、合格をたくさんの生徒が出来る様に1~2 クラス探究科学科を中部も富山高校も増やしてください、お願いします。管轄があるのか、富山高校の説明だけで中部高校からは説明の先生はいらっしゃいませんでしたし、親戚も富山高校に行くことが多かったので、富山高校が自然でしたが、中部高校も良いように思えます。県外の親戚から中部高校が自かったのではと言われたこともありましたが、家からも近い富山高校しか眼中にありませんでした。しかし、市内の位置から見ても北のわけの書が、南の方は富山高校という感じですので、両方共、互いに勉強の出来る生徒達、勉強の好きな生徒達の希望通り合格できますように1~2 クラスは、探究科学科を増やしてあげてください、お願い致します。
- 3. 八尾高校について、富山の南側では、進学校としては、八尾高校が昔からあり、皆近くの人達(南側)は八尾高校へ行く事が多いのです。この八尾高校からもちゃんと、国立大学へも行けています。先生方もしっかり受験に対しての勉強を教えてくれますので、この八尾高校からも国立大学は行けますので、八尾高校は、残して頂きたいです。この高校は特色があるのです。今年ニューヨークタイムズの 2025 年行くべき旅行先として、富山市が選ばれましたが、その中におわらがあるのです。この八尾高校には、郷土芸能部とう部活動がありまして、おわらを上手に踊る事が出来るのです。体育大会があり、全校生徒皆で、おわらを踊る事がありますが、その時良いお手本となり、郷土芸能部の方達が中心となり、おわらを踊ってくれます。父兄も見に行けますので、身近におわらを見る事ができますし、八尾高校生徒は皆、おわらを踊れるようになるのです。この様に世界からも、注目をしてくれているおわらを続けて行く為にも、八尾高校もおわらと同じ様におわらを習えている高校なので残して行って欲しいです。富山市の南方で、八尾高校は、発展してほしいです。南方から、南高校は通学しづらいのです、地理的に。いずみ高校は、市の中心にあり行きやすいと思いますが、総合学科は普通科にした方が大学に行きやすいと思われます。高校授業料が無料となると、私立も人気が出ると思われますが、いずみ高校が普通料になった方が生徒は大学を目指し、集まりやすいと思います。

46	素案において、「バランスのとれた配置」とありますが、具体的にどのようなバランスを考えているのかが見えないため、不安があります。公共交通機関の利便性から、市内に集 中しすぎないかを心配する人が非常に多いと思います。
47	定員割れの学校を統合するという意見がありましたが、すべての子どもが成績優秀なわけではないことを視野に再編してほしい。同じ偏差値のところを合併するなどもあるんじゃな いですか?
48	学校文化や伝統の喪失 統廃合により、長年培われた学校の文化や伝統が失われる可能性。部活動の統合や廃止が進み、生徒の活動機会が減る恐れ。統廃合する学校の伝統や文化を新学校に継承する仕組 みを設ける。部活動の統合に際し、活動場所や指導者の確保を事前に調整する。
49	高校が無くなった自治体の衰退は必至である。現在定員割れを起こしている学力上位校の募集定員を減らすことで、学力下位校や地元の産業の担い手づくりに貢献している職業系 の高校を存続させてほしい。
50	地域にとっての学校の存在の重要性を十分考慮することは「子どもの学習権保障」と矛盾しません。市町村のエゴであるかのような決めつけは間違っています。
51	富山県は、コンパクトな県で、15 市町村の構成となっていることから、1 市町に高校を最低 1 校の配置が可能ではないか。そして、4 広域圏のバランスを考慮して残りの学校を配置してはどうか。
52	通学の負担増 学校の統廃合により、一部の地域では自宅から遠くなる可能性がある。公共交通機関が十分でない地域では通学手段が限られ、親の送迎負担が増える。スクールバスの運行を拡充 し、遠方の生徒の通学負担を軽減する。交通費補助制度を導入し、通学コストを抑える。
53	とれに交通費もかかるわけで。近所に高校があることで交通費がかからず助かるというメリットもあるんですが、、、。
54	今後、公共交通機関の維持が危ぶまれ、運賃も値上げされるなど、通学の便が悪くなることが予想されます。全体として通学距離と通学時間が長くなる生徒を増やす案は根本的な 矛盾を抱えています。
55	小学校や中学校などは独自の交通手段などを行政対応もされながらもあるが高校生などもそのような補助なども必要ではないでしょうか?立て直す時期などもあり今後、交通機関 が近い場所にて設立統合も考えてもらいたい。
56	交通弱者の高校生が、毎日のように登校します。高校の所在地までの通学の利便性を高めるため、新高校を駅の 2km 圏内に設置してください。自宅が公共交通機関から離れたところにある者もいます。通学コストカットの為、電車やバスのフリーパスを高校生にください。駅近が難しいのならば、バスのピストン輸送やバスターミナルの設置など、通学保証の学校設置者としての責務を果たしてください。
57	大規模校が中心部に集約されることで、通学の費用や時間の負担もでてくるかと思います。
58	6ページ 「移行準備校」は、今ある学校が古い良くない学校と言っている。
59	徐々に再編結果を小出しにし、現場の教職員と在校生を苦しめるのではなく、速やかに完成した姿を見せて県民の判断を仰ぐべき。再編してよかったと思える姿を提示してください。

Ⅲ.「目指す姿」の実現に向けた検討方針

60	「中高一貫校」を導入していないのは要らなかったからです。富山が遅れていると卑下する必要はありません。他県では、中学入試競争の激化が起こっており、選択肢を増やすと いう理由だけで導入することは危険です。
61	国際バカロレア認定校設置は適切ではないと考えます。地方自治体が一部の人に偏った教育費をかけることになり不公平ではないかと思います。また、この学校で学んだ子どもたちは、多くが地元から離れていくことが想定されます。そうなれば、富山県内で人やお金が環流するかは疑問です。子どもたちが地元に残ってくれるような学校が大切で、そこに教育費をかけていくべきです。「地方人口減」の観点からも「バカロレア認定校」には、疑問が残ります。公教育の目的は、①『人格の完成』の実現、②『心身ともに健康』な国民の育成、③国民が平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な資質を備えることです。
62	概要版の(2)学習内容(学科構成)に、⑦総合学科では、是非とも全国募集の導入を盛り込んで頂きたいと思います。現在の小杉高校は、美術・スポーツ系列という系列があり、総合 学科でも全国から芸術やスポーツ(柔道・野球・女子ハンドボール)に優れ、意欲・興味・関心のある生徒を広く募集すべきとだと思っております。とりわけ、小杉高校柔道部は、県 内屈指の強豪校として県内外に知られており、柔道部 OB・OG にはオリンピック金メダリストをはじめ、世界・国内で大活躍した選手も多く輩出しております。
63	昨今、県内の少年スポーツ界では、小学校から中学校へ、また中学校から高校への間に、県外の魅力ある私立学校(中高一貫校など)・私立高校に進学する生徒が増加傾向にあります。県外へ転出した子どもたちの数以上に、県外や海外からの生徒を本県に受け入れるべきだと考えます。その施策の一貫として総合学科にも全国募集や外国人枠の導入を盛り込んでいただきたいと思います。また、⑧の職業系専門学科も将来の県内事業所の生産人口の増加を見込んで、外国人枠の導入やスポーツで全国・世界の檜舞台で活躍できる選手を全国募集することが必要不可欠と考えます。④未来創造では、学習内容の一部に部活動の強化と記載されていますが、他県の私立高校のように駅伝やバスケットボールなど、海外からの優秀な外国人ジュニアアスリートを受け入れ、本県の競技力の向上を一層図るため、外国人枠の導入が必要と考えます。
64	私立高校側から富山県の県立高校が羨ましがられるような「新時代とやまハイスクール構想」が望まれます。普通科系学科の③グローバルに外国人枠に〇が付けられていないのが 大変疑問を感じます。国際感覚をもって海外と関わる人材の育成を目的とするならば、優秀な外国人の生徒を本県高校教育に受け入れるべきだと考えます。
65	全国募集、外国人枠などもどんどん実施するべきだと考えます。
66	 統廃合が進めば、空いた学校等の施設は寄宿舎として利用できるので、山間部や、氷見、朝日といった県の端の地に暮らす人でも、中央の高校を選べるようになると思います。
67	本県に海外や県外から生徒を広く受け入れるためには、県内に学生寮の設置が望まれます。今後増えていくことが予想される廃校となった空き校舎や教育施設等を活用して、富山 県青年育成寮として改修・整備し、その施設を寮と併設して、広く地域住民に生涯学習の場や学校開放(スポーツ活動)の場を提供して利用してもらえるような施策が必要と考えま す。今後魅力ある県立高校となりますよう、他県に負けない活力のある人材の育成の場となりますよう大いに期待しております
68	高校の数を大幅に減らすことは決定事項で、新しく大規模な学校を作る構想もあると知りましたが、生徒にとっては学校の選択肢が減ってしまうことになり、通学の困難さから希望する進学先をあきらめるという事態が多くなると思います。この際、学校に通うという発想ではなく、コロナ禍でできていたリモートで行う授業を、通信制教育にならって、全日制の学校でももっと推進するべきではないでしょうか。
69	実習や集団活動を基本とする教育以外で、家庭学習でいけるものは積極的にリモート化し、全体的に生徒の学校内での拘束時間を短くするように努める。週あたりの登校日自体を もっと減らすようにすれば、今問題になっている、教員の負担過多の問題や、部活動地域移行の課題なども進めやすいのではないでしょうか。
70	色々とテンコ盛りの内容だったが、何をしたいのかよくわからなかった。予算削減に合わせた高校の差別化で、大規模校の導入はその典型に見えた。問題を抱え込まず、もっと NPO 等の外部の力を活用する事を考えた方が良いのではないかと思えた。
71	専門学科の進路選択の難しさ 進学や就職を考える際、従来の学科体系のほうが分かりやすい可能性。「新時代ハイスクール」の学科が大学や企業に適切に評価されるか不明。新学科の名称や目的を明確にし、 大学や企業に適切に評価されるよう調整。進路指導の専門家を配置し、学科選択時の支援を強化する。

72	外部へは無償ボランティアではなく相応の予算を用意すること、内部の現教員に対しては現在の給与水準からレベルアップに応じて上昇させること、が現場に活力を与え、形だけでなく実のある成果を生み出すものと思われます。例えば、上述の外部資源としては、自治体や営利企業ではカバーしきれない専門性を持った非営利団体 (NPO や一般社団法人等) が挙げられます。建物などハードに予算を割くことはわかりやすいのですが、教育において大切なのはソフト面、すなわち方針を立てる人であり実際に現場に立つ人であるので、多少ハード面を犠牲にしてでも、ソフト面を重点的に扱うことが構想を実りあるものにすることと考えます。
73	構想にあたって、普通系学科が従来のレベルから STEAM、グローバル、未来創造、他 2 つのようにそれぞれの方向に専門性のレベルを上げていこうとしているものと思われます。 そこで、現状の教育学部卒業者 (学部卒) で構成される教育現場がこのような変化に耐え得るために、外部からの専門的な教員 (教育学部以外の学部卒業者や、各分野での博士や修士)を採用したり、そのような専門性・準専門性を持った教員を現教員への研修者や教育コンサルタントとして利用するなど、積極的に外部の資源 (リソース) を活用されるのがよいかと思います。
74	教育の質の維持 新しい学科編成が本当に効果的なのか、十分な実績がないため不安が残る。教員の適応・研修が不十分だと、指導力の低下につながる恐れがある。新たな教育方針に対応できるよう、教員向けの研修プログラムを強化。外部の専門家や企業との連携で授業負担を軽減し、指導の質を向上させる。
75	学校を新たに作るという計画だが、箱モノにお金をかけるのではなく、同じお金をかけるのであれば、教員を増やし、教育内容を充実させることが重要である。生徒にとって、40 人で授業を受けるより 20 人で授業を受ける方が、質問などもしやすく学習効率は良いだろう。また、教える立場からすれば、当然 20 人の方が目が行き届き、生徒に合わせたきめ 細やかな指導が行える。よりよい教育の提供のためには、新たな学科を新設するより、教員の数を増やし、少人数での教育を行うことが近道である。特に、小学校や中学校の学習 の学び直しが必要であったり、生活や人間関係に問題がある生徒に対しては、教員 1 人当たりの担当生徒を少なくしなければいけない。そうしなければ、生徒は十分な指導を受け られない、教員は十分な指導を行えない。その結果、お互いに疲弊してしまい、教育効果が上がらないという悪循環に陥ることになるだろう。教育は人が人を教えるものだと考え る。
76	多様な選択科目は県単措置で教員を増やさないと設定できない。教員をどれだけ増やすか言わずにバラ色のイメージをばらまくのは無責任。県単独措置を何人置くのですか。
77	教員の負担増加 新たな学科・カリキュラムの導入により、教員の研修や準備が増え、負担が増大する可能性。経験の浅い教員が新しい教育スタイルに対応できるか不安。人口が減っていく中で人 材の確保が困難であり、一人の教員が担当する業務が増える可能性。学校ごとの特色を活かしたカリキュラムを維持し、生徒の学びの多様性を確保。外部評価機関を活用し、定期 的に教育の質をチェックする
78	全体としては、限られた教育資源の中で知恵を絞られていると感じます。しかし、様々な規模の学校や学科が用意されても、通う生徒が、何をどのように勉強すればよいかが分からず学習意欲が低下した状態では、せつかくの理念も実現されません。多くの中学校、高校で見られる、上位数パーセントだけが意欲的、自主的で、他は総じセー学、高校のアレルギー」になり、「自分は頭が悪いから」と、知的な好奇心を抑え込んでいるような状態を改善していくためにも、この再編の機会に、高校の入試制度と中学、高校ので習習指導のあり方を検討していただきたいと思います。規模や学科の議論だけでは、生徒の学習意欲の低下という、今現在の学校教育の課題が温存されてしまうのではないかと懸念しています。入試制度について、入学試験がある以上、中学生は、自身の成績で志望校を選択せざるを得ません。そこで、入学試験を各校独自に実施し、学カレベルや優先的に勉強する分野が中学生に分かる方式にすべきだと思います。例えば、『SIEAM』や『グローバル』の学校は、成績最上位層が対象になるため、現行の県内一律の入学試験よりも高い学力レベルを要する、独自の入学試験にすべきだと思います。また、中高一質校は、中学時点での通学距離に不公平感が出るので、県内どの地域でも、難関大学進手指す生徒にとっては、中学校の学習範囲の難問よりも、高校の先取り学習をしたほうが、一段と難しくなる高校の学習についていきやすくなります。早い時期に、学カベースの推薦入試を実施すれば、その時点で十分な学力のある生徒は、合格後に高校の先取り学習を進めることができます。英検などの検定試験やプログラミングに集中して取り組むのもよいでしょう。最も人数の多い中間層が対象となるであろう『その他の普通系学科』や『総合学科』では、勉強の努力が点数に反映されやすい基本問題が主体の入学試験が良いと思います。やる気を出して勉強しても点数が伸びなければ、会格後に高校の先取り学習を進めることができます。英検などの検定試験やプログラミングに集中して取り組むのもよいでしょう。最も人数の多い中間層が対象となるであろう『その他の普通系学科』や『総合学科』では、勉強の努力が点数に反映されやすい基本問題が主体の入学試験が良いと思います。中になっています。受験までの限られた時間で、基本問題を反復学習し、モチベーションを維持しながら、義務教育範囲の基礎学力を身につけるほうが、高校進学後にスルズに高校のカリキュラムに入っていけると思います。『職業系専門学科』では、五教科の他に、差をつける目的ではなく、高校からのメッセージとして、必要分野の基礎的な知識を問う独自試験を設け、中学生に優先順位をつけて勉強するよう促すのが良いと思います。例えば工業科であれば、数学から二次関数、三平方の定理、理科からは物理、化学の中の必要分野を、商業科であれば、地理の産業、公民の経済、基礎的なビジネス英語を、農業の関係を、福祉科は、公民の憲法の生存権や社会保障が、単科の体のはたらきを。以上のように、中学校の学習範囲から将来を見据えた。では対す、本述制度になっていけると思います。

80 第集定員はあくまで「受け入れ可能上限人数」です。この数字が充足していないことを残更に問題にして学校執険合の口実にすべきではありません。標準法の教職員定数は「実生徒人数」ではなく、「収容人数」にもとづいて異出されます。公私比率に現在、異立・私立=70 8:22.6 となっていますが、全国的にも低い募集率を自き上げるぐさです。 81 2 くの高校が両編の対象ということですが、実質的には、存続する高校と間検する高校という捉え方になると思います。各学校には、特色・相応の歴史があります。間好となって、よう高校を少しでも減らせないか、という思いている中で、景立高校だけを再属していっても、重なパランスになっていくかと思います。名学校には、特色・相応の歴史があります。間状となって、まる「最近な必要をお願いします。 82 そもそも素体再編の中集期計画策定の前に、再享年度の学級定員、学級数、公私比率、普通料剤会、4学医ごとの配置パランスなどはどうするのか、抵売してきた少人数学級を今後とうするのか、しっかりした環境が必要です。募集定員の前提となる公私比率を検討している「公私立事が実施を関係していると思います。名を持て、対象する人を表です。 83 特に、いわゆる「落ちにほれ」をなくし、全体の定上げを図り、全ての子供がいきいきと、のびのびと学校生活が送れるようにすることが人切ではないかと考える。高等学校とは直接関係ありませんが、特別支援学校と関係のにあるが、できない子供のレベルを引き上げることとでが繋の方式を検索しているため、表側は、得てして、いわゆる成域の良い子を整造(可愛がも)する傾向にあるが、できない子供のレベルを引き上げることとこをが繋の方式を使むではないかと考えることが大切ではないかと考え、こ高等学校とは直接関係ありませんが、特別支援学校(現実前)と高間高等支援学校(現面前)を制体されました。2校は今年度、創立12年目となり、10類生を社会に送り出すところで、当の事業を提供をでは、ませる全の会が報告者を提供しているといか。と、このでは、日本日となり、10類生を社会に送り出すところで、当に高等を提供をがで、3位の主候性がでは、3位の主候を表もありたいところで、ことろが、近年、障害があっても、(使育手編を参考)つていても、私立合体や定路の第)通信制、異立高校等へ選手とした。と、企業を表しています。こ品の高学技体のでの選集に対すると、思います、そして、その基礎を会へるが時による、高校を同じまましています。このではよると思います。そして、その、近年日となり、10類生を社会に送り出すとよっ、近年日となり、2000年日におきるのの方は技術があらからかを生を集をあるのに当労していても、名の表が表としています。この問題がありませたが、特別支援学校(国本教)・連絡を用いるとしています。この問題がありませたが、場合の表が表しています。この問題がありませたが、場合の主に表がありませたが、場合の主に表がありませたがありませたが、場合のではないならではないないならではないならではないならではないならではないならではないならではないならではないならではないならではないならではないならではないならではないならではないならではないならではないならではないならではないならではないならではないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	79	「公私比率の撤廃」「私学への就学支援金の拡充・教育の無償化」が進む中、施設設備が整備されている私学が多い中で、公立高校の環境整備が重要です。
81 しまう高校を少しでも減らせないか、という思いで述べさせていただきます。県立高校の両編ということですが、それと並行して、現存する私立高校との調整も必要かと思います。 # で・サーストのどとんが減っている中で、県立高校だけを再編していっても、歪なパランスになっていくかと思います。私立高校の方も、相応に定員を減らしていってもらえるよう、調整をお願いします。 # で・サーストのというでは、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点	80	
82 後どうするのか。しっかりした議論が必要です。募集定員の前提となる公私比率を検討している「公私立高等学校連絡会議」を公開することも必要です。 特に、いわゆる「落ちこぼれ」をなくし、全体の底上げを図り、全ての子供がいきさきと、のびのど学校生活が送れるようにすることが大切ではないか、教師は、得てして、いわゆる成績の良い子を優遇(同愛がる)する傾向にあるが、できない子供のレベルを引き上げることこそが教育の大事な使命ではないかと考える。 高等学校とは直接関係ありませんが、特別支援学校も巻き込んだハイスケール構想にならないかと考え、意見を述べさせてください。富山県では軽度知的障害のある生徒が就労を目指す学校として平成25年4月に富山高等支援学校(県東部)と高岡高等支援学校(県西部)を開校されました。2 やはら年度、創立12 年目となり、10 期生を社会に送り出すところです。高山高等支援学校(以上ます。会とです。こころが、近年、障害があっても(傍海千帳等を持っていても)私立高校や定時制・通信制、県立高校等へ進学するなど、連路選択の幅が広がってきています。富山市郊外にある富山高等支援学校も通学の困難さからがませを集めるのに苦労しています。ところが、近年、保護・10 担当では、高等学校とは、10 担当をといった。 10 担当を対しています。ところで、近年、インクルーンブ教育という言葉もよく同じするようになってきましています。ところで、近年、インクルーンブ教育という言葉もよく同じするようになってきましています。ところで、近年、インクルーンブ教育という言葉もよく同じするようになってきました。 10 担当では、高等学校と高等特別支援学校の信息等もによってきました。 10 担当では、高等学校と高等特別支援学校の石り様にも様々なものが見られます。 10 元代、沖縄県立の高等特別支援学校(同じ数地内に設置:日常生活や授業・学校行事・生徒会活動など様々な機会を通じて共に学び共に助け合う教育を実施。)・沖縄県立田部連絡高等学校と と沖縄県立田部農本高等支援学校(企業科)・沖縄県立臨民高等学校とと沖縄県立中部農林高等支援学校(企業科)・沖縄県立田部高等学校と「大田県立の高等学校とと、10 には、10 には、20 にままり、20 には、20 には、2	81	しまう高校を少しでも減らせないか、という思いで述べさせていただきます。県立高校の再編ということですが、それと並行して、現存する私立高校との調整も必要かと思います。年少人口がどんどん減っている中で、県立高校だけを再編していっても、歪なバランスになっていくかと思います。私立高校の方も、相応に定員を減らしていってもらえるよ
つから成務の良い子を優遇 (可愛がる) する傾向にあるが、できない子供のレベルを引き上げることこそが教育の大事な使命ではないかと考える。 高等学校とは直接関係ありませんが、特別支援学校も巻き込んだハイスクール構想になるないかと考え、意見を述べさせてください。富山県では軽度知的障害のある生徒が就労を目指す学校として平成25年4月に富山高等支援学校(県東部)と高岡高等支援学校(県西部)を開校されました。2枚は今年度、創立12年目となり、10 期生を社会に送り出すところです。富山高等支援学校では、3年生の全員が障害者雇用として企業等から内定をいただき、新生活に向け、準備をしているところです。ところが、近年、障害があっても(疾育手帳等を持っていても)私立高校や定時制・通信制、県立高校を企業するなど、進路選択の関係が広がってきています。場合、お立に後の日韓さからか生徒を集めるのに苦労しています。今後、さらに障害者雇用率が上がることは決定していますし、どの職場にも障害のある方は動務され、様々な人と協働する時代になると思います。そして、その基礎を変く高於時代にも、高校で関すが自力があるとは決定していますし、どの職場にも障害のある方は動務され、様々な人と協働する時代になると思います。そして、その基礎を変く高於時代にも、高等では関すが高います。ところで、近年、インクルーシブ教育という言葉もよく耳にするようになってきました。他県では、高等学校と高等特別支援学校の在り様にも様々なものが見られます。例えば、沖縄県立の高校併置高等特別支援学校(同じ敷地内に設置:日常生活や授業・学校行事・生徒会活動など様々な機会を通して共に学び共に助け合う教育を実施。)・沖縄県立の高校併置高等特別支援学校(信養業科)・沖縄県立の高等等が良というに対しています。と、海に関いています。 中国・中国・中国・中国・中国・中国・中国・中国・中国・中国・中国・中国・中国・中	82	
目指す学校として平成25年4月に富山高等支援学校では、3年生の全員が障害者雇用として企業等から内定をいただき、新生活に向け、準備をしているところです。宮山高等支援学校では、3年生の全員が障害者雇用として企業等から内定をいただき、新生活に向け、準備をしているところです。ところが、近年、障害があっても(挽育手帳等を持っていても)私立高校や定時制・通信制、県立高校等へ進学するなど、進路運択の幅が広がってきています。富山市郊外にある富山高等支援学校も通学の困難さからか生徒を集めるのに苦労しています。今後、さらに障害者雇用率が上がることは決定していますし、どの職場にも障害のある方は勤務され、様々な人と協働する時代になると思います。そして、その基礎を整く高校時代にも、高校生同立が区いに認め合うような教育を実践する必要があると思っています。ところで、近年、インクルーシブ教育という言葉もよく耳にするようになってきました。他県では、高等学校と高等特別支援学校の在り様にも様々なものが見られます。例えば、沖縄県立南島原等等校と(同じ敷地内に設置:日常生活や授業・学校行事・生徒会活動など様々な機会を通じて共に学び共に助け合う教育を実施。)・沖縄県立南島原等学校と(同じ敷地内に設置:日常生活や授業・学校行事・生徒会活動など様々な機会を通じて共に学び共に助け合う教育を実施。)・沖縄県立南島原等学校と 沖縄県立南島原等支援学校 (産業科)・沖縄県立南島高等学校と 沖縄県立南島高等学校と 高等体別支援学校 (産業科)・沖縄県立市部高等等や校と高等特別支援学校 (産業科)・沖縄県立市が高等学校と高等特別支援学校 (産業料)・沖縄県立市が高等学校と高等特別支援学校 (産業料)・カル県国の高等等学校と高等特別支援学校 (産業料)・カル県国の高等等学校と高等特別支援学校 (産業料)・カルーの人では、方により、全国の大きが大き、大きの大きの機会を通じて共に学び共に向います。)・全局県立南部等を共に実施。)・右口屋市立ち高等等学校と高等特別支援学校 (高等企業科)・カルーの高は高等を共に支持な、大きは、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	83	
	84	目指す学校として平成25年4月に富山高等支援学校(県東部)と高岡高等支援学校(県西部)を開校されました。2校は今年度、創立12年目となり、10 期生を社会に送り出すところです。富山高等支援学校では、3年生の全員が障害者雇用として企業等から内定をいただき、新生活に向け、準備をしているところです。ところが、近年、障害があっても(病育手帳等を持っていても)私立高校や定時制・通信制、県立高校等へ進学するなど、進路選択の幅が広がってきています。富山市郊外にある富山高等支援学校も通学の困難さからか生徒を集めるのに苦労しています。今後、さらに障害者雇用率が上がることは決定していますし、どの職場にも障害のある方は勤務され、様々な人と協働する時代になると思います。そして、その基礎を築く高校時代にも、高校生同士が互いに認め合うような教育を実践する必要があると思っています。ところで、近年、インクルーシブ教育という言葉もよく耳にするようになってきました。他県では、高等学校と高等特別支援学校の在り様にも様々なものが見られます。例えば、沖縄県立の高校借高高等特別支援学校(同じ敷地内に設置:日常生活や授業・学校行事・生徒会活動など様々な機会を通じて共に学び共に助け合う教育を実施。)・沖縄県立南島原高等学校 と 沖縄県立中部農林高等支援学校(産業科)・沖縄県立市部商業高等学校 と 沖縄県立中部農林高等支援学校(産業科)・沖縄県立市部商業高等学校 と 沖縄県立中部農林高等支援学校(産業科)・沖縄県立南島南湾等学校 と 沖縄県立中部農林高等支援学校(産業科)とおけいましています。名古屋市立名宮商業高高等等学校と名古屋市立岩宮高等特別支援学校(産業科)をおけいましています。との商業高校と高等特別支援学校は廊下でつながっている。(教育課程の連携。学校行事、教科学習、部活動等を共に実施。)・名古屋市立岩宮商業高等学校内に奈良県立高等養護学校高口分教室がある。(学校行事や、部活動を共に実施。高円分教室では美術の授業を共に学ぶ。)・奈良県立高等養護学校内に奈良県立高等養護学校高口分教室 https://www.enet.nara.jp/sns/koutouyougo/index cfm/1,0,60,159,html・奈良県立高等学校内に奈良県立高等養護学校内に奈良県立高等養護学校でから、今後も障害のある生徒が就労を目指す学校として、一人一人の生徒の能力を磨き、育てていかなければいけないと思っています。と同時に、県立高校では、近年、せつかく入学したにも関わらず進路変更をする生徒も複数いると聞きます。また、療育手帳を持ち、障害がありながらも定員に満たない県立高校を志願し、入学はしたものの、結局、授業についていけず、困っているところです。「新時代とやまハイスクール構想(仮称)」が、高等学校の規模や設置場所等だけでなく、障害の有無に関係なく皆が学な合える「富山県の教育権想」
	85	

86	特別支援学校においては、今後どのように変化していくのかが気になります。(個人的には、いずれ特別支援学校も統合していくと考えています。)現在の私の勤務校では、高い 就職率が特色であり、自然豊かな環境も魅力です。学校紹介でもそのことをアピールしています。しかし、立地的なことを考えると大沢野へ行くための公共交通機関がバスのみで あることや、通学に時間が掛かる傾向にあることから、通学の不便さを感じ、学校選択をしていない生徒も多いと思います。毎年の募集も大変難しい状況であるように思います。自分の勤務する学校が、今後いつまでも続いてほしいという思いとは別に、生徒数の激減や学校教育の環境改善の点から、いずれ統合の流れが特別支援学校にも及ぶのではないか と思っています。例えば、富山県立富山特別支援学校なるものが設立し、その中に軽度知的、聴覚障害、身体障害などの生徒が在籍するとか、インクルーシブ教育の視点から、再編される高校の中に特別支援教育の生徒も在籍できるようなシステムにするなどです。また、呉東において、軽度知的を対象とする富山高等支援学校と富山聴覚支援学校におい て、違う特色(作業学習においても、農業系や福祉系などと差別化を図るなど)をもち、編成をしなくても変化していくなどもあるかもしれません。学校再編について、特別支援学の視点においても、今後議論がされていくのではという思いから投稿させていただきました。読みにくい内容ですみません。
87	構想について、目指すものや志は理解した。併せて議論を進めてほしいのは、不登校や行動における問題など、学校不適応の生徒(主として高校生年代の)について、若者の社会への適応、社会的自立への支援を目指した公的機関の設置である。学校不適応が増加していることは、社会問題であるので、その解決には行政の責任ある取り組みは必要不可欠である。現状の高等学校においては、その対応は各学校に一任されており、また、単位制高校や民間のフリースクール、N 校、S 校などの通信制高校などが受け皿になっているのではないか。ほとんどすべてのケースが個々の問題として扱われ、体系的であったり、組織的ではない。高校現場で対応する教師も、臨床心理や医療、福祉についての専門知識を学んでいる者は皆無で、常に経験や勘に頼っている場合が多いことから知見やノウハウも継承されにくい。不適応の若者が、知見、経験豊富な人間味のある教師、スタッフに囲まれ、安心してリスタートを切ることのできる環境を望む。具体的には、高校生活に不適応、中退者、復学したい者、学ぶ意欲がある者、大学進学や就職を目指す若者たちに教科の授業を行い、学力の保障を得ること、キャリアガイダンスを含む、発達段階に応じた進路指導を行うことができる機関の設置を考えていただきたい。教育に関する、社会的課題を解決するための教育行政であってほしいと願います。
88	当事者の意見反映について 素案の中では、高校に行く当事者、高校生や、今後行く中学生や近年行っていた高校卒業世代(18~20代位)への意見反映、意見聴取は行われたのか?素案からはよくわからなかった。今、子どもの意見聴取の重要性がいわれており、子どもの権利条例でもできるだけ幅広い子どもの声を反映する努力がされているところであり、それが十分されたのであるのか?そこはどこに反映されているのか?意見の聴取は声が出しにくい環境の子ども達や高校終了の世代に的確にアプローチすべきです。社会的養護(施設・里親の子)、障がいをもつ子(親や支援者を通じることもありか)、ヤングケアラー・不登校など学校と十分かかわってない子、ひとり親の子供・保護者、外国人の子ども等々、少数であって、かつ、高校を選択する可能性がある、あるいはあった方々へは必ず意見をききとるべきです。弱者、少数者への目配りを求めます。よろしくお願いします。
89	行政機関のパブリックコメントというと、どうしてもアリバイ作りの側面があると思います(独断で進めていったのではなく、「一応」、県民に意見を伺った、という体裁をとる ためのもの)。県立高校の再編については、県民全体を巻き込んだ大きなテーマです。ぜひとも、結論ありきではなく、パブリックコメントで寄せられた意見(今回の私の提言に 限らず)のうち、「なるほど」と思われるものがあれば、本当に採り入れていただきたいと思います。以上、どうかよろしくお願いいたします。
90	貴教育委員会が行った高校生と教職員アンケートが公表されている。将来の高校像については、「学習内容の自由さ」「共通教科の充実」「中規模校」が多く求められている。子 ども真ん中政策をいうなら、子どもの権利条約制定を目指すなら、この要求にまっすぐに答えるべきではないだろうか。そのために、教育行政は、教育条件の整備に尽力すべきで ある。例えば・小学校・中学校の全国学力テスト中止を文部科学省に働きかけるほか、学習指導要領にしばられない各校独自の教育をみとめる・学級定数を 20 人にし、教師と生 徒・生徒と生徒が討論しやすい学習環境にする・教職員を増やすとともに多様な校外学習の教育施設を整える等学校教育は発達段階に応じて人格の形成を図る場でもあり、教育の 目的を経済優先、単なる人材育成にのみ偏重する考えには反対だ。教育委員会には、教育の条理に基づく姿勢を貫いてほしい。ご奮闘を期待します。
91	学校再編による混乱 再編によって学校の特色が大きく変わり、保護者や生徒の混乱を招く可能性。途中で制度が変わることで、在校生への影響も懸念される。段階的に再編を実施し、在校生への影響 を最小限にする。統廃合前に保護者・生徒との意見交換を頻繁に行い、納得感を得る。

92	新時代とやまと言うくらいですから、今からの子供達がどういうことに興味を持っているか、をまずは知るべきです。子供たちにとってお爺さん、おばあさんと言った年代の方々が 述べている意見などよりは今まさに子育て世代こそに意見を聞いていくべきではと思います。富山は残念ながら、子供たちの目線では魅力がありません。 年寄りの県という風にしか思えないとせっかく富山でも学んでもその先は東京や大阪、金沢などにしか行かない、就職したいと思う会社がないと南砺市にアニメの会社があります が、それも富山県では活かせてないのでは?とデザイン科のある学校も、県立よりは私立の方がアニメやゲーム、CGなどが学びやすい環境でもあります。 今の、これからの子供たちの興味、やりたいことはそういうことが重きにあると思います。そればかりではないでしょうが…地元で学びやすい環境、就職しやすい環境づくりを希望 します。
93	
93	人口減少のための学校統合は仕方がないとは感じるが次世代、今の小学生世代の子供がおられる親御さんたちの今後の学校編成などの考えはどうなのでしょうか?
	私は1学年2万人以上いた世代で、一クラス 45 名学級の1学年 13 クラス 14 クラス 15 クラスの県内 No.1のマンモス中学校で子供時代を過ごした 50 代です。 でも、ここまで子供が少なくなった時代に「一クラス 40 名はそのまま」「大規模校をつくる」という富山県のプロの皆様が練りに練って考えに考えた結果の案には全く賛同できま せん。
	私は今、本業ではありませんが、教員免許を持っているので、不登校で中学校時代に全く学校に行けなかった子供が多数在籍する通信高校でたまに授業を行っています。中学時代は全く学校に通えず4月に入学してきた子たちが、通信高校でありながら積極的にスクーリングに参加して、ボーリング大会などのお楽しみ行事にも参加し、中学時代にできなかったとができるようになったと嬉しそうに報告しています。10名から20名のクラスで、全員に先生の目が行き届いていることを感じます。 富山県は来年度の予算で「フリースクール」など、子どものための施策にお金を使うつもりだということは承知しています。でも、そもそもフリースクールに行く前に近所の中学校
94	に通いやすくなるよう、先生たちもクラスの子供たちに目が行き届くよう、子どもたちが自分は気にかけてもらっていると感じることができるよう、1 クラスの人数を減らすことは 考えないのでしょうか?なぜそこにお金を使わないのか、不思議です。子どものために、といいながら、自治体の大事な仕事である公教育を放棄しているとしか思えません。公立高
	校では十分なケアが受けられないと親や子供に思わせ公立離れを促進し、高校教育を外注にもっていきたいのかな?とさえ思いました。超有名私立の進学校がある都会ならまだし も、公立高校でも十分な教育を受けられるという田舎ならではのよさを、せっかくのよさを放棄していると思います。そんなことは少子化とはいえ、そこそこ子供がいる都会に任せ ておけばいいのに、とも思います。子どもの少ない地方こそ、公教育に力を入れるべきだと思います。
	誰もが一定水準の教育を受けられることで、どれほどいい効果があるか、そんなことは歴史を見ても現代の世界を見ても明らかです。子どもが教育を受けられない貧しい国は今でも 世界にたくさんあります。子供の数が減っているからただただ高校の数を減らす、なんてあまりにも単純で簡単な方法だと思います。県がそんな構想を発表するなんて信じられませ ん。
	ぺ。 1 クラスの人数ですか、現在は、40 人と言われているので、参観日でも高校生は、体格も大きくなっているので、教室が一杯になり父兄は教室の後には入れず、廊下から窓から授業
	を見る事になります。ですから、40 人よりも 36 人や 34 人や 32 人の様に少人数にして欲しいです。しかし、勝手に大人が分かりやすい様に 35 人としているのは、間違いです。小
95	学校から廊下に並ぶにも、机に並ぶにも 2 人ずつになる事が多いのです、35 人では 1 人の生徒が出てしまうのです。ですから少人数学校には高校もして頂きたいです。体格は、昔
90	より大きくなっているのに、40 人では、教空が狭いのです。そこでの人数は 35 人は間違いです。奇数ではなく、偶数にすべきです。生徒、児童の事を考えて下さい。35 人では机ー 人の子が出ます。廊下も二人ずつ並ぶ事が多いのに 1 人だけの子が出ます。体育大会等のグループ作りも 35 人では多い少ないが出ますので、ちゃんと平等にグループを作るにも 36
	人又は34人又は32人の様に偶数にして下さいお願いします。

96	社会は大きく変化している。裁判員制度が導入され、法改正によって成人年齢が20歳から18歳に引き下げられ、一人前の社会人として選挙権が与えられた。彼らの投票行動がこれからの日本の運命をかえていくはずである。明治政府はまだ財政基盤も固まっていない明治5年に学制を発布し、国民皆学を宣言した。全国に小学校をつくり教員を採用した。近代国家の樹立にはまず国民の教育、国民の能力向上が不可欠と判断したからに他ならない。昭和20年日本は戦争に敗け、敗戦国となり、東京はじめ、日本中の大都市が焼け野が原になり、国民は住む家も、明日の食べ物にも困窮していた時に、昭和22年教育基本法が制定され、義務教育をこれまでの6年間から9年間に延長した。全国に中学校を建設し、教員を採用した。日本の戦後の復興にはこの義務教育の拡充なくしては考えられない。産業界は、同一規格で高品質な工業製品を効率よく大量生産するために、より早くより正確に計算出来、一字でも多く正確に漢字が読み書き出来る人材を求めた。教育界はそれに応えるために、一斉授業で効率よく知識を授けることに注力し、それで人間の能力を測ってきた面があることは否定出来ない。しかし、時代は変わった。計算力も漢字力も知識量もお記憶量もAIがはるかに人間を超えている時代になった。人間はAIに出来ない仕事、すなわちアイディア・独創性で競う時代になるうとしている。これからの教育の目標・目的はこのアイディアカ、独創力をいかにして育てるかにある。そのためには、現在の40人学級では絶対無理である。例えば、1時間50分授業とすれば、40人の生徒が一人1分ずつ発言すれば、それで40分かかってしまう。これが20人学級であれば、一人1分間ずつ発言しても20分間、残りの30分間でさらに議論を重ね、道筋をつけることが出来る。こうして生徒一人ひとりの発言を軸にさらに深めていく授業こそがこれから求められてる授業ではないだろうか。私の娘が30年前アメリカの大学に留学した時、その大学は1クラスの定員は20人と決まっていて、希望者が多ければ、さらにもう1クラス増えたそうである。ある時、生物の授業で議論になって、それでは皆で動物園へ行って確かめてみようということになって、みんなで動物園へ行った、とか、国際関係の授業で、実際ニューヨーの国連ビルへ行って、そこで一人ひとりシンガボールとかポトナム人になったつもりでスピーチをした。とかの経験を開いて、とても衝撃だったことを覚えている。こうしたことが出来るのは、1クラス 20人だからである。20人であれば、合宿したりキャンプしたり、研修旅行や企業見学などすごくフットワークがよくなるわけです。生徒のアイディアカ、独創力を育むためには、能動的な学びの場を提供していくことが必要だと考えます。現在、日本の大学で行われているようなゼミ形式の授業を先取りして、高校の授業の中に取り入れていくことだと思います。
97	県内全ての高校が1クラス25~30人学級にするべきである。現在の40人学級では教員にとっての負担が大きすぎるし、これから更に負担は増えると懸念される。現場で働いて いると一年一年、子どもたちが少しずつ弱く(優しく)無気力になっているのを感じるし、不登校の生徒も増えている。そんな中、学習内容は難易度が高くなり、学校行事は増えて 生徒・教員共々それらに追われてゆっくり育むということが抜け落ちているように思う。私自身は教員になって15年ほど経つが体力的・精神的にいつまで続けられるだろうと考え る。子どもも大人も行きたくなる学校を創りたい。
98	高校再編で大規模校を作るのではなく、少人数学級の実現に向けて動いてほしい。少人数学級が実現すれば今よりも手厚い指導が可能となる。現在、大規模校では、登校渋りや保健 室登校、長期欠席者が多いと聞く。画一的な指導ではなく、個々に応じた指導や寄り添い方が一層求められる昨今、安易な大規模校設置には賛成できない。
99	<私たちが目指す姿> 生徒の学習権を保障し、ゆきとどいた教育をすすめるため、子どもが減っても教育予算と教職員数を減らさずに、生徒減に応じた段階的な学級定員減、すなわち少人数学級の拡充 を今後も力強くすすめるべきです。(例えば、40人6学級の240人ではなく30人8学級の240人の学校の方が望ましい。)そのためには、県独自の努力に加えて、一刻も 早く、義務・高校標準法の改正を行う必要があります。
100	生徒一人一人の個性や能力、理解度に合わせた教育を行い、多様な進路実現を可能にするためには、大前提として、1 クラス 40 人でなく、30 人または 20 人といった少人数クラスでの学習のほうが効率よくその目標を達成できると考える。
101	スクールミッションを設置者が一方的に学校に押し付けてはいけない。
102	若い人の学びたい内容と、レベルと、環境がしっかり整わないと、どんどん他へいってしまう。富山県は特に若い人(特に女性)の県外流出が多いと聞きますから、ぜひ、抜本的 な改革を望みます。
103	親の経済的負担通学費 (バス・電車・自転車購入費用など)の増加が予想される。制服や教材の変更による追加費用が発生する可能性。遠地での PTA などの役員活動が困難。制服・教材の変更を最小限 に抑え、コスト増を防ぐ。統廃合により新設される学校の入学準備金の補助を検討する。PTA などの役員を廃止し、親の負担を減らす。
104	東京都は中学3年生の修学旅行を海外旅行とし、シンガポールへ行くことを発表していますが、どうか富山県の中学、高校生にも海外旅行を体験させてあげて欲しい。